

第Ⅳ章 合意形成や情報発信に向けた取組

第Ⅳ章 合意形成や情報発信に向けた取組

本章では、今年度制作した「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の内容を伝えるパネル及び、県内外向けイベント（普天間飛行場跡地利用県民フォーラム）の開催概要・報告について整理した。さらに、今年度実施したホームページの更新内容について整理した。

1. 全体計画の中間取りまとめ（第2回）説明ツールの制作

本節では、今年度制作したパネルの目的及び構成等について整理した。

（1）パネル制作の目的

「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」を県民・市民・地権者等へ広く情報発信をするためのツールとしてパネルを制作した。

パネルは大人向けパネルと子ども向けパネルの2パターンを制作した。

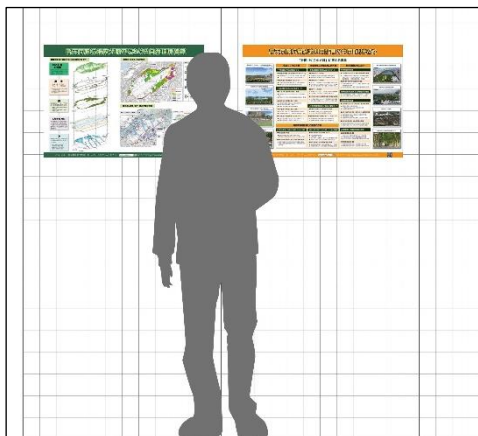
（2）パネルの構成

パネルサイズを見直し、過年度制作パネルB2横（51.5 cm×72.8 cm）の構成からA1縦（84.1 cm×59.4 cm）の構成に変更し、パネルサイズの拡大を図った。内容がより伝わるレイアウトにするため、一部内容を簡略化、写真や文字を大きくすることで、閲覧者により伝わる構成とした。

パネルは、大人向けパネル、子ども向けパネル、各10枚を制作した。

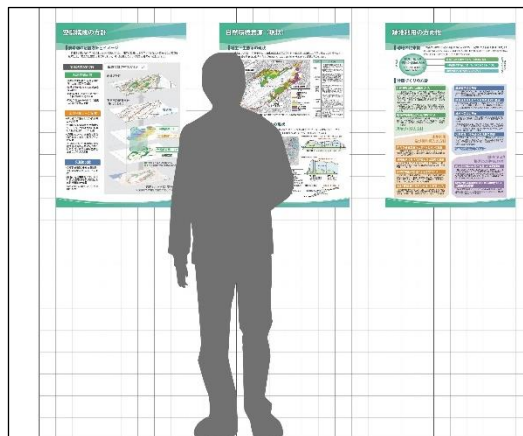
■過年度制作パネル

・B2横（51.5 cm×72.8 cm）



■今年度制作パネル

・A1縦（84.1 cm×59.4 cm）



図Ⅳ-1 パネルサイズについて

(3) 大人向けパネル

1) 大人向けパネルのストーリー

【イントロ】

パネル①『普天間飛行場の跡地利用計画について』

- ・「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」策定に至るまでの経緯や今後の展開を紹介

パネル②『跡地利用の方向性』

- ・時間が経過しても変わることのない揺るぎないまちづくりの方向性を説明
- ・跡地の将来像の実現に向けての方針を説明

【普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力(シマの基層)】

普天間飛行場及び周辺における自然環境資源・歴史文化資源を展示し、普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力を知ってもらう。

パネル③『自然環境資源(現状)』

- ・普天間の地形と植生の状況を紹介
- ・豊富な地下水とそれにより西側に地下水盆が形成されていることを紹介

パネル④『歴史文化資源(マップ・重要遺跡)』

- ・重要遺跡の概要について、写真を強調することでビジュアル的に紹介

パネル⑤『歴史文化資源(戦前の集落)』

- ・原風景模型から、先人たちの暮らしの知恵やカーとの関係等を紹介

【配置方針のイメージ】

普天間飛行場に潜在する地域資源を活かした跡地利用計画「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の考え方を説明し、配置方針のイメージを理解してもらう。

パネル⑥『空間構成の方針』

- ・地域資源を活かしたゾーニング計画の説明として、緑地空間配置、土地利用ゾーン配置、交通網配置の要素から成り立っていることを説明

パネル⑦『配置方針図』

- ・要素別の配置を重ね合わせた、配置方針図をビジュアル的に紹介

【未来のまちに夢を抱く】

ゾーンイメージにより未来のまちへ夢を抱いてもらうとともに、新しいまちで実現するライフスタイルや身近な跡地利用の事例を紹介することで跡地利用の重要性を感じてもらう。

パネル⑧『ゾーンイメージ』

- ・未来のまちをより具体的にイメージすることが可能なスケッチを紹介

パネル⑨『みどりの中のまちで育む沖縄の新しいライフスタイル』

パネル⑩『基地の跡地利用の効果』

- ・跡地利用の事例と今後返還が予定されている跡地の経済波及効果を紹介することで、今後の新しいまち(跡地利用)に対する期待をもってもらう

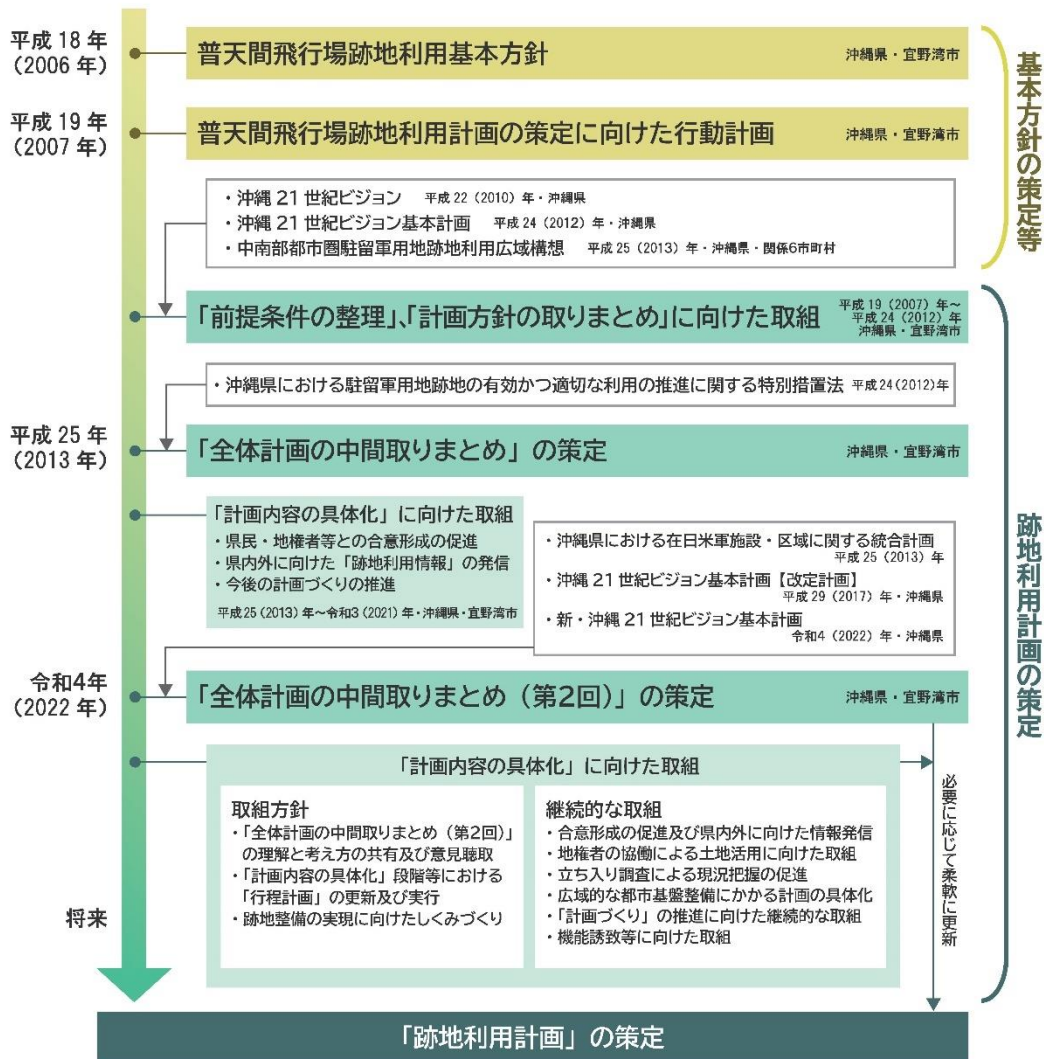
2) 大人向けパネル一覧（実寸サイズ：A1 版）

普天間飛行場の跡地利用計画について

計画策定までの取組の流れ

普天間飛行場の跡地利用に向けては、平成 18 年に「普天間飛行場跡地利用基本方針」、平成 19 年に「普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行動計画」を沖縄県と宜野湾市の共同で策定しました。県市の共同調査や文化財・自然環境調査、関係者との合意形成に向けた取組を進めていくなかで、**平成 25 年に「跡地利用計画」の中間的な成果となる「全体計画の中間取りまとめ」を策定**しました。

その後、計画条件の変更や文献調査等による現況の詳細把握、有識者検討会議、県民・地権者等の意見、社会状況等の変化等を踏まえ、中間的な成果の更新版として**令和 4 年に「全体計画の中間取りまとめ（第 2 回）」を策定**しました。県民や地権者の皆さまのご意見をお聞きしながら、沖縄全体の発展に資する跡地利用計画の策定に向けて引き続き取り組んでいきます。



図Ⅳ-2 [パネル①] 普天間飛行場の跡地利用計画について

跡地利用の方向性

跡地の将来像

計画づくりにおける跡地の将来像の実現に向け、各方針の具体化を推進します。また、中長期的視点をもって跡地利用に取り組む中、時間が経過しても変わらない視点を揺るぎないまちづくりの方向性として位置づけています。



計画づくりの方針

沖縄振興に向けた環境づくり

「揺るぎないまちづくりの方向性」の具体的方針として展開する沖縄振興に向けた環境づくりは、跡地周辺の生態系ネットワークと一体となった環境・緑の豊かさやその創造・保全に関する環境技術を広く適用し、さらに発展させていくことであり、跡地利用の重要な役割と受け止め、その成果を次世代に継承

これら環境づくりの方針のもとづく脱炭素社会の実現や最先端技術の導入などの取組により、新たな時代に対応した持続可能な沖縄の発展に寄与するとともにSDGsの推進に貢献

地域の特性を活かした環境づくり

地域の自然・歴史環境資源を共有財産として次世代に継承することを目指し、跡地を含む一帯の自然・歴史特性（樹林地・水環境・地下空洞・歴史）を活かした環境づくりを推進

環境づくりの方針

土地利用 及び機能導入の方針

新たな価値を生み出す「みどり」の創造

沖縄振興・国際交流の舞台を支えるため、新たな高付加価値を生み出す源として跡地全体に魅力ある緑地空間を公民一体となって創出

沖縄振興に向けた象徴となる空間の形成

大規模公園エリアの中核として、日本経済発展に貢献する沖縄振興の推進や多面的な価値創造の象徴となる「沖縄振興コア」を形成

多様な機能の複合によるまちづくり

都市の活力の発現や持続をもたらす新たな沖縄の振興拠点の形成に向けて、機能の重層的な導入や、機能融合ゾーンを含む三つの土地利用ゾーン（振興拠点、都市拠点、居住）による複合的なまちづくりを推進

土地利用需要の開拓と並行した計画づくり

普天間飛行場の跡地においては、跡地利用の目標の実現に向けて、県内外から跡地利用に参加する開発事業者や立地企業等を募り、新たな需要を開拓し、計画づくりを推進

幹線道路等の整備

普天間飛行場の跡地では、跡地利用を契機とした県土構造の再編と周辺市街地と一体となった道路網整備を目標として、幹線道路網等の整備を推進

鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備

県土の均衡ある発展を支え、跡地のまちづくりの推進にあたって大きな原動力と期待される、鉄軌道を含む新たな公共交通の基幹軸の跡地への導入を踏まえた計画づくりを推進

緑地空間等の整備

「みどりの中」のまちづくりの実現に向けて、公民連携の下、公園・緑地と都市的土地利用が融合した大規模公園エリアを整備

水循環の継承や自然・歴史特性の保全・活用、周辺市街地からの利用といった跡地の特性も活かし、都市基盤施設として、都市全体の価値や魅力を高める公園・緑地（少なくとも約100ha以上）を整備

供給処理・情報通信環境等の整備

普天間飛行場の跡地においては、最先端の都市基盤技術を導入しながら、環境づくりと連携した供給処理施設の基盤と産業立地や多様な都市サービス導入のインフラとなる情報通信環境等を整備

都市基盤整備の方針

周辺市街地 整備との連携の方針

周辺市街地の改善と連携した跡地利用

周辺市街地との連携による相互の発展、基地所在に起因する課題の解決に向けて、中南部都市圏の都市機能の立地動向を踏まえた上で、周辺市街地との効果的な役割分担や連携による跡地の整備や、周辺市街地の再編及び生活利便の向上等に向けた取組を導入

跡地と周辺市街地にまたがる環境づくりと都市基盤整備

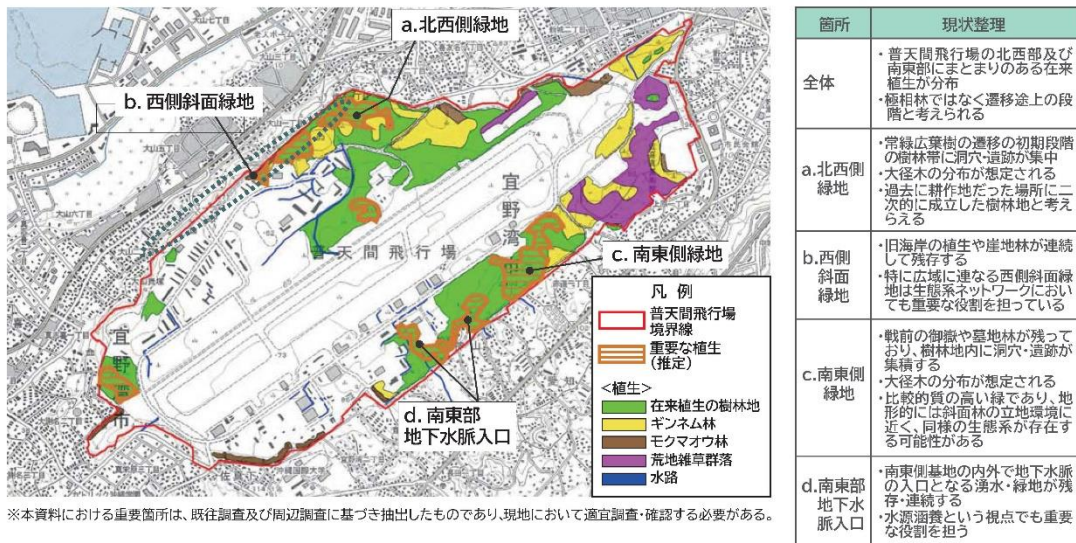
跡地と周辺市街地にまたがる一体的な環境づくりや都市基盤整備に向けて、跡地のまちづくりとあわせて、周辺市街地における計画づくりを推進

図IV-3 [パネル②] 跡地利用の方向性

自然環境資源（現状）

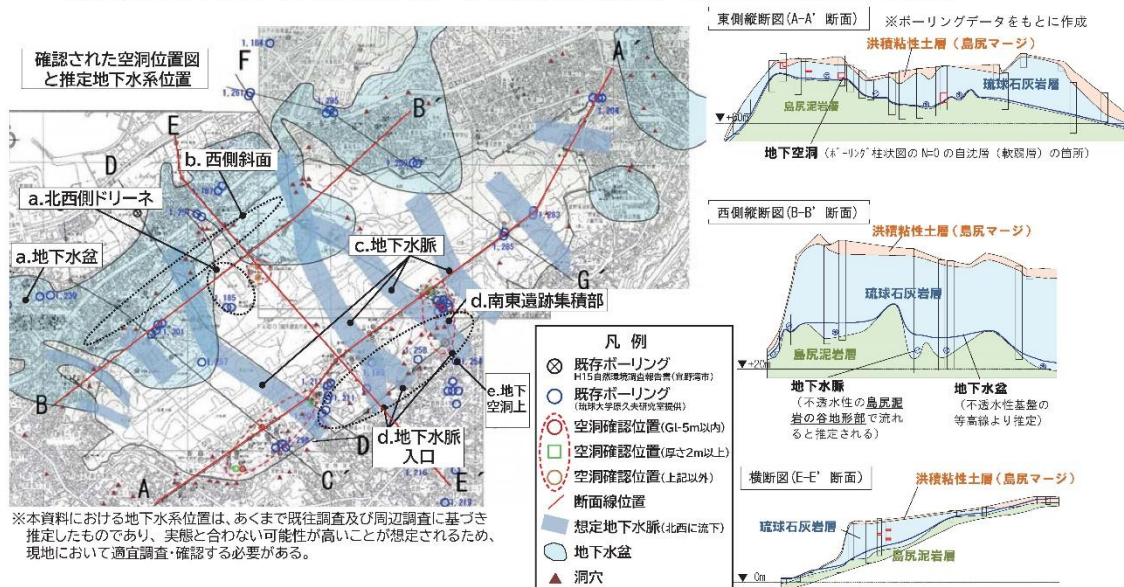
植生・生態系の現状

植生については、南東側の在来植生を主とした質の高い樹林地及び北西側の二次的に成立した樹林地において、貴重な動植物の生育可能性があるため、この2か所の樹林地が特に重要と考えられます。



地形・地質・洞穴・湧水の現状

普天間飛行場内は、琉球石灰岩台地を拡大な集水域とした複数の地下水脈を有する地域であり、西側斜面周辺に地下水脈（1つの大規模な帯水層又は帯水層群の分布地域）が形成されています。



図IV-4 [パネル③] 自然環境資源（現状）

歴史文化資源（マップ・重要遺跡）

戦前の宜野湾の様子（イメージ）

※背景の空中写真は1945年1月と2月に撮影された写真を合成したものです。



普天間飛行場内に残る重要遺跡の分類

1. 複合遺物 〈対象遺跡〉 ①伊佐上原遺跡群 ⑧神山テラガマ洞穴遺跡 ⑨神山トウン遺跡 ⑪宜野湾クシヌウタキ遺跡  宜野湾クシヌウタキ遺跡	2. 古集落 〈対象遺跡〉 ④新城古集落 ⑦赤道渡呂寒原屋取古集落  赤道渡呂寒原屋取古集落	3. 古湧泉 〈対象遺跡〉 ⑤新城シヌカール古湧泉 ⑫宜野湾メヌカール古湧泉 ⑬神山クシヌカール古湧泉  宜野湾メヌカール古湧泉	
4. 古墳群 〈対象遺跡〉 ⑥赤道渡呂寒原古墓群 	5. 生産跡 〈対象遺跡〉 ②上原濡原遺跡 ③野高タマタ原遺跡  上原濡原遺跡	6. 闘牛場 〈対象遺跡〉 ⑩神山後原ウシナー跡 	7. 宿道 〈対象遺跡〉 ⑭宜野湾並松街道 

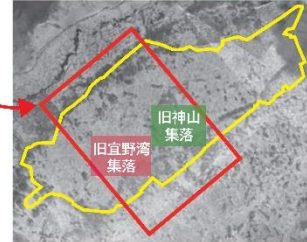
図IV-5 [パネル④] 歴史文化資源（マップ・重要遺跡）

歴史文化資源（戦前の集落）

地形と緑を活かした集落

普天間飛行場となる前のかつての集落の模型（原風景模型）を製作することで、傾斜や風の通り道を活かした家々、集落の要所にある湧水、人々が集まる市場や祭の広場など、先人たちの暮らしを理解し、新しいまちに活かすための土地利用に関する知恵や空間構成等を明らかにしました。

このあたりを
模型にしました！



西側斜面の緑地

西側の斜面にある緑地は、西海岸から強くふき上げる海風を和らげています。



並松街道

並松街道は、普天満宮へお参りに行く道の景色づくりだけでなく、北風を和らげる効果をするために琉球松が植えられたと考えられます。



農地を風から守る緑地

まとまった緑地やついたてのように木が植えられたところは、農地を北風から守るためと考えられます。



ムイ（森）とシリガーラの斜面にある緑地は、東北東からふく風から、それぞれの集落を守っていました。

家の向きと屋敷林

集落の屋敷は、そのほとんどが南側から入るつくりでした。北側には屋敷林があり、冬は冷たく強い北風をさえぎり、夏は涼しい南風を取りこんでいました。屋敷林以外にも、石がきの屋敷囲いや、土塀の上に屋敷林を植えていた家も多くありました。



【旧宜野湾集落と旧神山集落の歴史・文化資源】

①宜野湾並松街道

琉球王国時代、首里から普天満宮までの参詣道だったところです。
約3,000本の琉球松が植えられ、国指定天然記念物に指定されていました。現在は残っていません。



②宜野湾メヌカー古湧泉

飲料水・浴水・洗濯水の3つの水槽に流れ込み、村人たちの生活には欠かせない場所でした。



③宜野湾クシヌウタキ遺跡

ウタキ（御嶽）は祖先をまつる祭祀をするところです。石の祠や海砂利敷などから村落祭祀やその移り変わりを見てとれます。



④神山テラガマ洞穴遺跡

この横穴洞穴は普天満宮で普天満宮の祭神である女神伝承を伝えるなど、字神山の聖地として現在でも信仰の対象です。



⑤神山トゥン遺跡

集落の先祖を祭る石の祠が保存状態良く残っており、当時の祭祀を知ることが出来る重要な遺跡です。



⑥神山クシヌカー古湧泉

生活用水だけでなく、新年の若水、子どもの産湯、死者の浴水、はしかの治療にも使われました。



⑦神山後原ウシナー跡（闘牛場）

沖縄の伝統的な娯楽文化である闘牛。1911（明治44）年頃まで利用されていました。現在、県内で唯一残っている闘牛場です。



図IV-6 [パネル⑤] 歴史文化資源（戦前の集落）

空間構成の方針

要素別の配置方針とイメージ

目標とする跡地利用の姿をわかりやすく表わすため、計画の前提となる活用すべき自然・歴史特性の配置を確認の上、要素別の配置方針を取りまとめ、それらを重ね合わせて配置方針図を作成しています。

要素別の配置方針

緑地空間配置

- ・自然・歴史特性の保全活用に
向けた緑地空間の配置
- ・跡地振興の拠点となる緑地空間の配置
- ・跡地全体を網羅するネットワーク状の緑地空間の配置
- ・周辺市街地からの利用に配慮した緑地空間の配置

土地利用ゾーン配置

- ・緑と都市の融合した沖縄振興コアの配置
- ・沖縄健康医療拠点や西海岸リゾートエリアとの連携等に配慮した振興拠点ゾーンの配置
- ・振興拠点ゾーンを補完する機能等を有する都市拠点ゾーンの配置
- ・周辺市街地との地形的な連担性や宜野湾の歴史の気づきとして活用すること等を勘案した居住ゾーンの配置

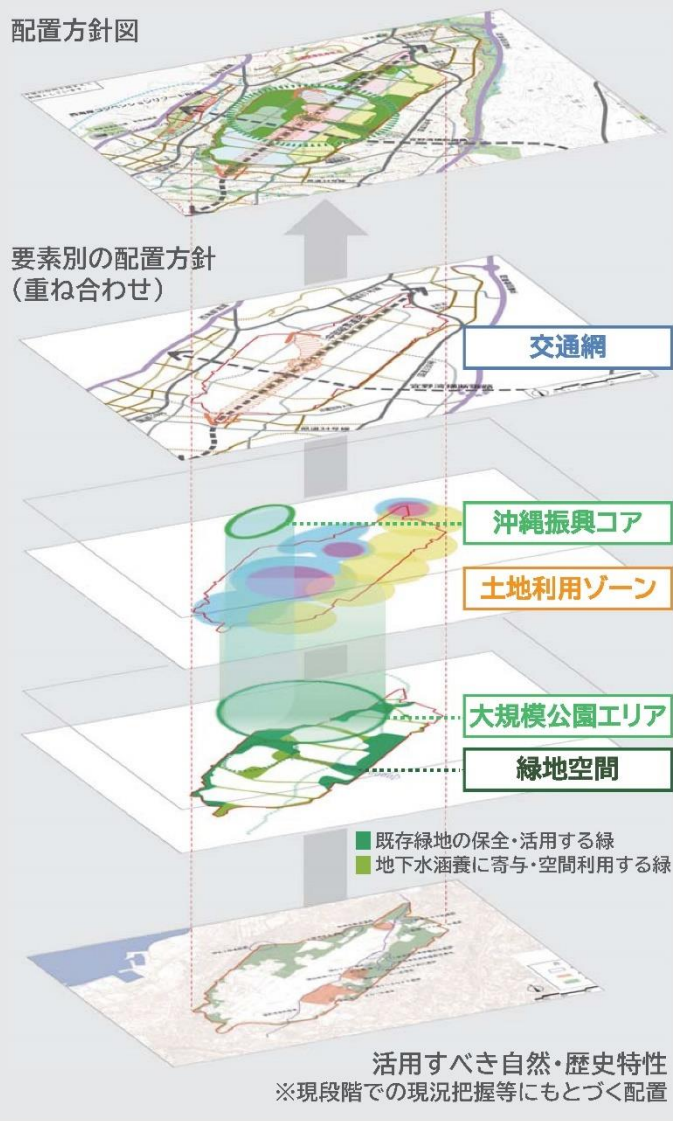
交通網配置

- ・主要幹線道路(中部縦貫道路、宜野湾横断道路)のルート配置
- ・跡地と周辺市街地にまたがる幹線道路網(都市幹線道路、地区幹線道路)の配置
- ・鉄軌道を含む新たな公共交通軸の配置

配置方針の考え方イメージ

配置方針図

要素別の配置方針 (重ね合わせ)



図Ⅳ-7 [パネル⑥] 空間構成の方針

配置方針図

配置方針図

「配置方針図」は、要素別の「配置方針」を重ね合わせ、跡地の緑地の区域、跡地の土地利用ゾーン区分及び跡地と周辺市街地にまたがる交通網のルートで構成しています。

配置方針図の作成においては、以下について配慮しました。

- ①活用すべき自然・歴史特性を「公園・緑地」として確保することを最優先とする
- ②跡地内外を貫く広域的な都市基盤（主要幹線道路、鉄軌道を含む新たな公共交通軸）の配置にあたって、地形等の物理的制約によりやむを得ず①の確保が困難な場合においては、極力、活用すべき自然・歴史特性の保全・活用に努める
- ③緑地空間は、①で確保する「公園・緑地」のみならず、土地利用ゾーンと一体で創出する



凡 例

	大規模公園エリア		振興拠点ゾーン (沖縄振興コア)		振興拠点ゾーン		都市拠点ゾーン
	居住ゾーン (旧集落跡等)		公園・緑地		周辺市街地の公園・緑地等		湧水
	並松街道(往時)		シンボル空間		高規格幹線道路、 地域高規格道路		主要幹線道路 (計画構想区間)
	都市幹線道路 (既設区間/計画構想区間)		地区幹線道路 (既設区間/計画構想区間)		公共交通軸(構想)		

図Ⅳ-8 [パネル⑦] 配置方針図

ゾーンイメージ

振興拠点ゾーンのイメージ

大規模公園エリアの中心でもあり、豊かな緑のなかに新たな産業関連施設が集積します。多様な人材が集い、国際交流や先進的な研究が展開されます。国内外の企業や研究機関との連携で、研究開発からイノベーションが育まれます。

1. 新しい価値を生み出す沖縄振興コア
2. 多彩な人材の知を結び合わせる
創造・交流の場
3. 先進的な研究の場
4. イノベーションを育む場
5. 研究・ビジネスの交流機会
6. 創造性を刺激する開放的な環境



都市拠点ゾーンのイメージ

オフィスや店舗、公共施設等が混在し、新しいライフスタイルを生み出す魅力的なまちが形成されます。まちの中心地として、多様な移動手段が接続する交通結節点があり、シームレスな移動環境が確保されます。

1. 都心の共同住宅
2. 働く場と暮らしの場が一体となった
ミクストユースのまち
3. 新しい交通網がつなぐにぎわいの集客拠点
4. 誰もが思い思いに楽しめる市民広場
5. 昼夜、多彩な表情を楽しめる
集客拠点となるまち



居住ゾーンのイメージ

ゆとりある住宅地に豊かな緑が育ち、環境と調和した住みやすく魅力的なまちが形成されます。地域の歴史的な場所や文化財が大切に保存されていて、美しい並松街道が跡地のシンボルの一つとなります。

1. 居心地のよい緑地空間
2. 地域活動の拠点となるコミュニティ施設
3. 伝統行事を通じた地域コミュニティの形成
4. 緑豊かなゆとりある居住環境
5. 歴史・文化資源を活かした公園
6. 首里城と普天満宮を結ぶ並松街道の継承

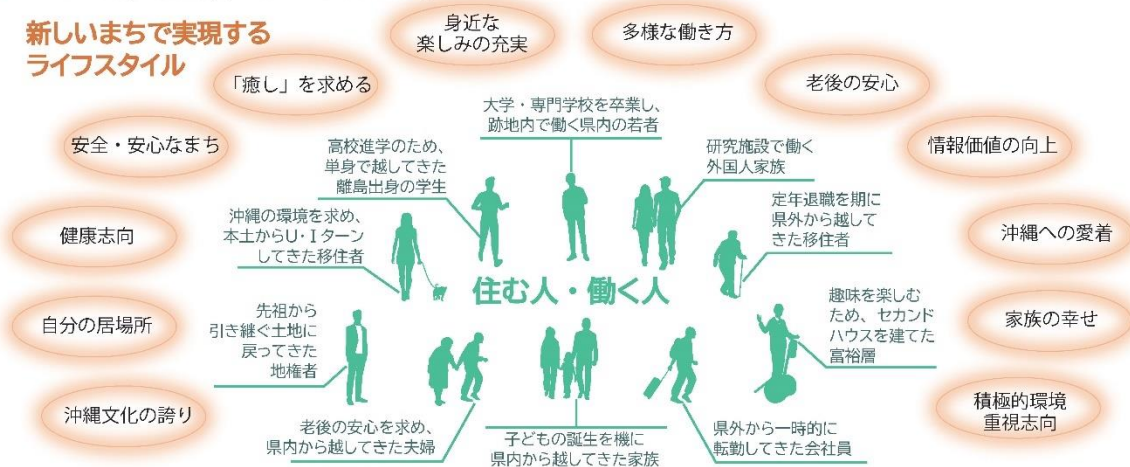


図IV-9 [パネル⑧] ゾーンイメージ

みどりの中のまちで育む沖縄の新しいライフスタイル

普天間飛行場跡地に新しいまちができた時、どのような人が住み、働くのか、価値観やライフスタイルも含めてシーン別の過ごし方をイメージしてみました。

新しいまちで実現する ライフスタイル



シーン：上質な暮らしを楽しむ



シーン：最先端の職場で働く



シーン：まちなかに繰り出す



シーン：質の高い教育・医療・福祉を受ける



図IV-10 [パネル⑨] みどりの中のまちで育む沖縄の新しいライフスタイル

基地の跡地利用の効果

跡地利用の経済波及効果

那覇新都心 地区



返還前	返還後
直接経済効果 52 億円/年 誘発雇用人数 485 人	直接経済効果 1,634 億円/年 32倍 誘発雇用人数 16,475 人 34倍

小禄金城 地区

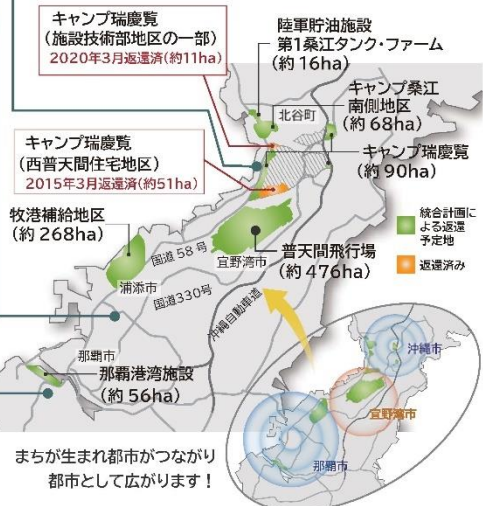


返還前	返還後
直接経済効果 34 億円/年 誘発雇用人数 257 人	直接経済効果 489 億円/年 14倍 誘発雇用人数 4,885 人 19倍

桑江・北前 地区



返還前	返還後
直接経済効果 3 億円/年 誘発雇用人数 25 人	直接経済効果 336 億円/年 108倍 誘発雇用人数 3,377 人 135倍



返還予定地の経済波及効果（予測）

普天間飛行場



平和のシンボルとなり、世界の大都市と肩を並べ、世界中から人々が集まる都市

返還前	返還後
直接経済効果 120 億円/年 誘発雇用人数 1,074 人	直接経済効果 3,866 億円/年 32倍 誘発雇用人数 34,093 人 32倍

牧港補給地区



人・海・文化を活かし、世界の皆が楽しめる都市

返還前	返還後
直接経済効果 202 億円/年 誘発雇用人数 1,793 人	直接経済効果 2,564 億円/年 13倍 誘発雇用人数 24,928 人 14倍

那覇港湾施設



沖縄の玄関口らしく人や物が行き来する海辺の都市

返還前	返還後
直接経済効果 30 億円/年 誘発雇用人数 228 人	直接経済効果 1,076 億円/年 36倍 誘発雇用人数 10,687 人 47倍

キャンプ桑江 南側地区



沖縄らしいにぎわいと、仕事場と家が近い快適な都市生活ができるまち

返還前	返還後
直接経済効果 40 億円/年 誘発雇用人数 351 人	直接経済効果 334 億円/年 8倍 誘発雇用人数 3,409 人 10倍

キャンプ瑞慶覧



暮らしやすい家と交通の便を活かした新しいスタイルの生活ができるまち

返還前	返還後
直接経済効果 109 億円/年 誘発雇用人数 954 人	直接経済効果 1,061 億円/年 10倍 誘発雇用人数 7,386 人 8倍

出典：「駐留軍用地跡地利用に伴う経済波及効果等に関する検討調査（平成 27 年 1 月沖縄県）」の試算による

直接経済効果：消費や投資等の経済取引により、個人・事業者等への支出が発生する効果
誘発雇用人数：誘発される生産を行うために必要となる理論上の雇用人数

図Ⅳ-11 [パネル⑩] 基地の跡地利用の効果

(4) 子ども向けパネル

1) 子ども向けパネルのストーリー

【イントロ】

パネル①『普天間飛行場のこと』

- ・太平洋戦争～飛行場として利用されるまでの歴史的経緯を紹介
- ・身近な施設(学校等)との対比により、基地の大きさをイメージしてもらう
- ・昔の航空写真(集落を図示)からかつて基地内に集落が形成されていたことや、現在の航空写真(学校を図示)から危険性の高い現状を知ってもらう

【普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力(シマの基層)】

普天間飛行場及び周辺における自然環境資源・歴史文化資源を展示し、普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力を知ってもらう。

パネル②『飛行場はどんな場所?(地下水)』

- ・豊富な地下水とそれにより西側の水田が形成されていることを紹介

パネル③『飛行場はどんな場所?(地形・自然)』

- ・普天間の地形とそれによる眺望の良さ、植生の状況を紹介

パネル④『飛行場はどんな場所?(歴史)』

- ・重要遺跡の概要について、写真を強調することでビジュアル的に紹介

パネル⑤『飛行場はどんな場所?(集落)』

- ・原風景模型から、先人たちの暮らしの知恵やカーとの関係等を紹介

【中間取りまとめ(第2回)について】

普天間飛行場に潜在する地域資源を活かした跡地利用計画「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の考え方を説明し、配置方針のイメージを理解してもらう。

パネル⑥『未来のまちの計画図』

- ・地域資源を活かしたゾーニング計画の説明として、歴史・緑・水の要素から成り立っていることを説明
- ・その他、緑地計画・交通網計画について紹介

【未来のまちに夢を抱く】

イメージスケッチにより未来のまちへ夢を抱いてもらうとともに、身近な跡地利用の事例を紹介することで跡地利用の重要性を感じてもらう。

パネル⑦～⑨『未来のまちのイメージ(各ゾーン)』

- ・未来のまちをより具体的にイメージすることが可能なスケッチを紹介

パネル⑩『基地がまちになった例』

- ・跡地利用の例として、「那覇新都心地区」と「小禄金城地区」を紹介
- ・成熟したまちを例として紹介することで驚きを与え、今後の新しいまち(跡地利用)に対する期待をもってもら

2) 子ども向けパネル一覧（実寸サイズ：A1 版）

普天間飛行場のこと

宜野湾市にある大きな飛行場について！！

宜野湾市には、**普天間飛行場**という大きな**米軍施設**があり、宜野湾市の約4分の1の大きさです。宜野湾市の小学校の平均面積で換算すると・・・約230個分になります！

戦前は人々が暮らしている集落がありましたが、戦後、米軍によって飛行場として整備されました。普天間飛行場は将来、返還が予定されており、**新しいまちづくり**に向けて話し合いが行われています。

普天間飛行場の歴史的経緯

- 1945年4月 太平洋戦争時、米軍の沖縄上陸により、沖縄戦開始。
- 6月頃 米軍に土地を接収され、本土決戦に備えて普天間飛行場建設開始。
- 6月23日 沖縄戦での組織的戦闘が終了。
- 1962年 米軍が基地のフェンスを設置開始。
- 1972年5月15日 沖縄が本土に復帰。
- 1978年 ハンビー飛行場の返還に伴い、その基地機能が普天間基地へ移され、現在のような運用形態へ。



普天間飛行場の 今

世界で最も危険と言われる飛行場…

比べてみよう！



戦前に人々が暮らしていた頃…

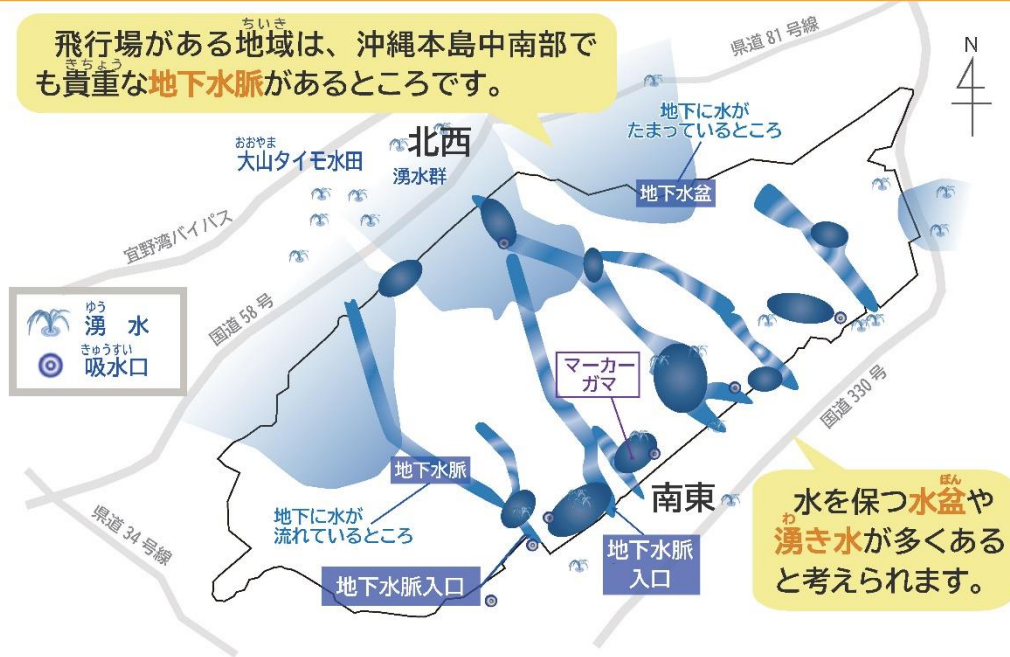
普天間飛行場の 昔

図Ⅳ-12 [パネル①] 普天間飛行場のこと

飛行場はどんな場所？（地下水）

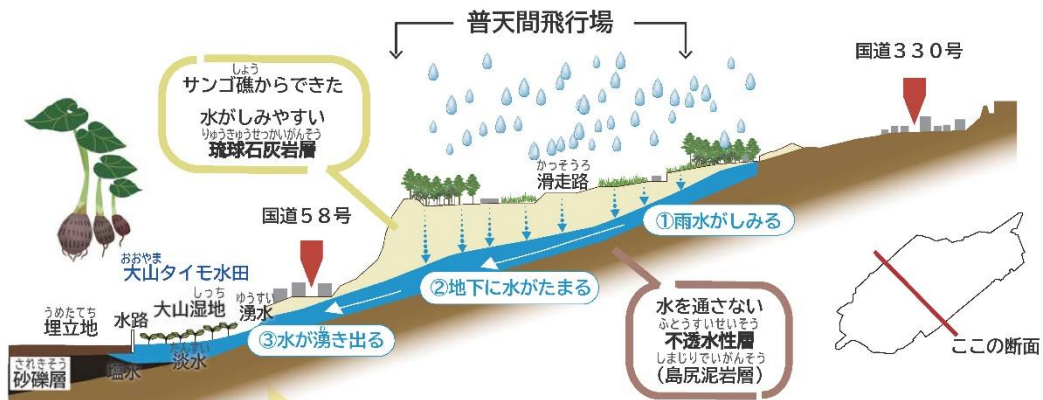
地下には水の流れがある！？

飛行場がある地域は、沖縄本島中南部でも貴重な**地下水脈**があるとこです。



水を保つ**水盆**や**湧き水**が多くあると考えられます。

西側の豊富な湧水はここから流れてきたの！？



雨水が琉球石灰岩層でろ過され、地下を流れて大山タイモ水田で湧き出すと考えられます。

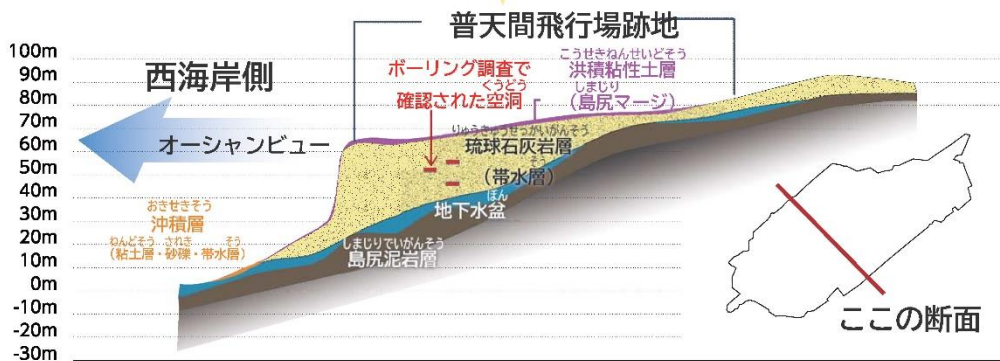
図IV-13 [パネル②] 飛行場はどんな場所？（地下水）

飛行場はどんな場所？（地形・自然）

・ サンゴ礁からできた琉球石灰岩層が地形を作った!？ ・

飛行場の西側一帯は、急勾配の斜面となっており、この高低差が西側の眺望の良さを作りだしています。

サンゴ礁からできた琉球石灰岩層は西側にいくほど厚くなっていると考えられます。厚いところでは固い地盤の島尻泥岩層まで 30 ～ 40m 程あると考えられており、この層の中には洞穴があると推測されます。



・ 手つかずの自然が残っている!？ ・

南東側と北西側に豊かな植生が残っており、貴重な動植物の生育の可能性があると考えられます。



図IV-14 [パネル③] 飛行場はどんな場所？（地形・自然）

飛行場はどんな場所？（歴史）

昔の名残りがここにある！？



①伊佐上原遺跡群
約 5000 年前から沖縄戦前までのムラ・畑・道のあとや墓などがきれいに残っています。

②上原濡原遺跡
沖縄で最も古い（約 2800 年前）畑のあとだと考えられているところです。

③野嵩タマタ原遺跡
約 500 年前の畑のあとがあります。沖縄の農技術の移り変わりを知る重要な畑あつです。

④新城古集落
沖縄戦前の家の囲い（木や石積み）があり、地中には約 300 年前のムラのあとが残されています。

⑤新城シマヌカー古湧泉
琉球石灰岩（サンゴからできた）台地の斜面地のへりにあるウリカー（階段でおりる形の古いわき水）です。

⑥赤道渡呂寒原古墓群
自然のほらあなや人工的にほったものなど古いお墓があります。

⑦赤道渡呂寒原屋取古集落
ここには昔の人間の生活がわかる伝統的なムラのあとが残されています。

⑧神山テラガマ洞穴遺跡
普天満宮の祭神である女神伝承を伝えるなど、大切な場所でのりの対象です。

⑨神山トウン遺跡
村の先祖を祭る石のほこらがきれいに残っており、昔のおがみを知ることができる重要な場所です。

⑩神山後原ウシナー跡
沖縄の伝統的な遊びであるとう牛。昔のとう牛をした場所がきれいに残っているただ一つの場所です。

⑪宜野湾クシヌウタキ遺跡
ウタキ（御嶽）は祖先をまつところでした。

⑫宜野湾メーヌカー古湧泉
わき出た水は飲み水、お風呂、洗濯の水の 3 つの水そうに流れ込み、ムラ人たちの生活に欠かせない場所でした。

⑬神山クシヌカー古湧泉
わき水は生活用水だけではなく、産湯・死者の浴水・はしかの手当にも使われていました。

⑭宜野湾並松街道
琉球王国時代、首里から普天満宮へお参りするための道でした。約 3000 本の琉球松が植えられその美しさから国の天然記念物に指定されていました。現在は残っていません。

※今わかっているものや類推したもので、確定したものではありません

図IV-15 [パネル⑤] 飛行場はどんな場所？（歴史）

飛行場はどんな場所？（集落）

地形と緑を活かした集落のひみつ

普天間飛行場となる前の集落の模型を製作し、昔の人たちの生活の知恵を明らかにしました。

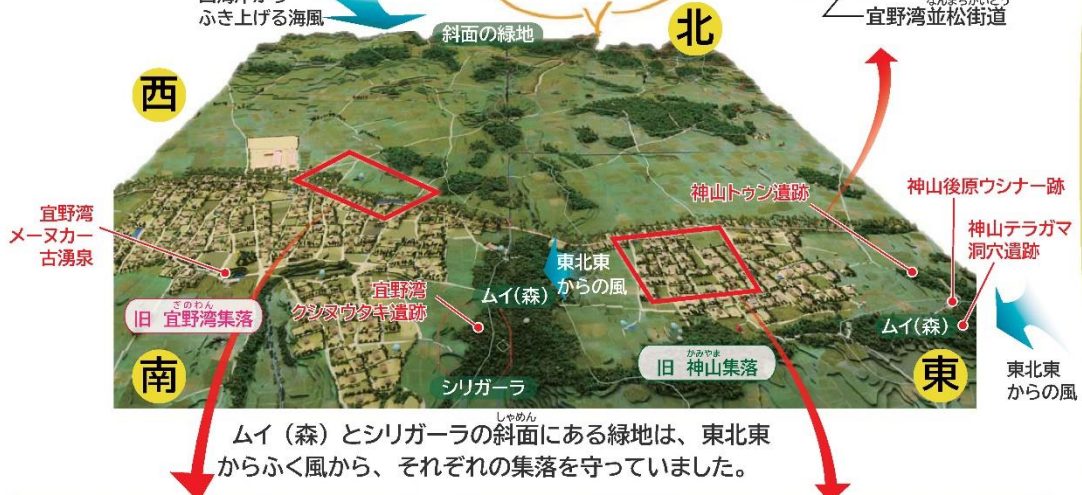
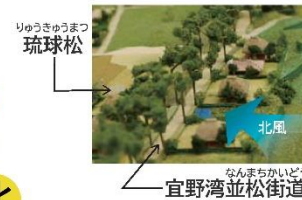
西側斜面の緑地

西側の斜面にある緑地は、西海岸から強くふき上げる海風を和らげています。



宜野湾並松街道

並松街道は、普天満宮へお参りに行く道の景色づくりだけでなく、北風を和らげる効果を上げるために琉球松が植えられたと考えられます。



農地を風から守る緑地

まとまった緑地やついたてのように木が植えられたところは、農地を北風から守るためと考えられます。



家の向きと屋敷林

集落の屋敷は、そのほとんどが南側から入る つくりでした。北側には屋敷林があり、冬は冷たく強い北風をさえぎり、夏は涼しい南風を取りこんでいました。屋敷林の他にも、石がきの屋敷囲いや、土堀の上に屋敷林を植えていた家も多くありました。



図IV-16 [パネル⑤] 飛行場はどんな場所？（集落）

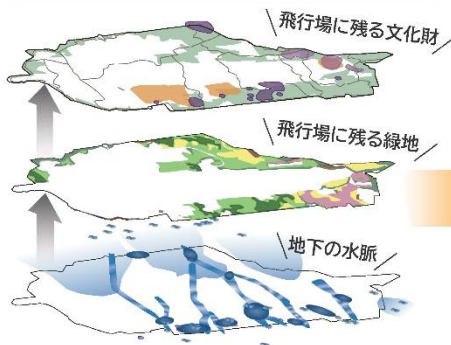
未来のまちの計画図

世界に誇れる優れた環境の創造 ～みどり（歴史・緑・地形・水）の中のまちづくり～

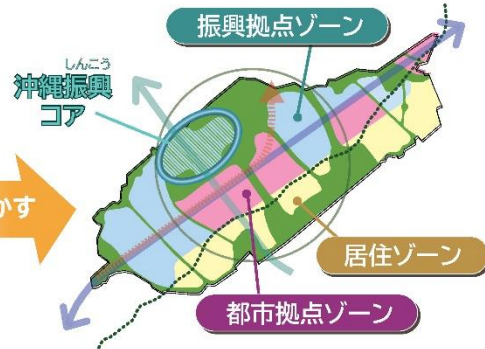
現在、普天間飛行場の跡地^{あとち}に、新しいまちをつくるために話し合いが行われているところです。未来のまちの計画について、くわしく紹介します！

まちのゾーニング計画

跡地の歴史・緑・地形・水の要素



住む人・働く人・訪れる人の多様性を受け入れ、都市の活力をうみだし、環境の豊かさが持続する世界に誇れる環境づくりをめざしています。



緑地空間計画

今ある緑地^{りよくち}を活かし、新しい緑地も増やして、跡地全体をみどりの中のまちにする計画です。緑地と都市がひとつになった大規模公園エリア^{だいきぼ}がまちの中心に配置されています。

※公共として確保する緑地空間のほか、民有地でも緑地を確保し、跡地全体で緑をつくりだします。



交通網計画

飛行場で分断されていた交通をつなぎ、東西南北にスムーズに移動できる道路をつくる計画です。鉄軌道を含む新たな公共交通も計画されています。

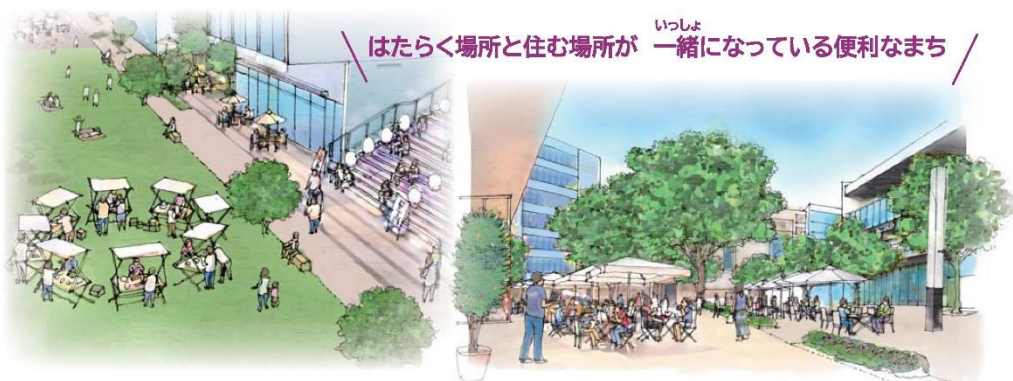


図IV-17 [パネル⑥] 未来のまちの計画図

未来のまちのイメージ

都市拠点ゾーン

「都市拠点ゾーン」は、交通の乗り換え拠点^{きょてん}があったり、お店や飲食店などの人が集まる施設^{しせつ}、市民のための施設があります。まちの中心地として、魅力的で便利な場所をイメージしています。



図IV-18 [パネル⑦] 未来のまちのイメージ

未来のまちのイメージ

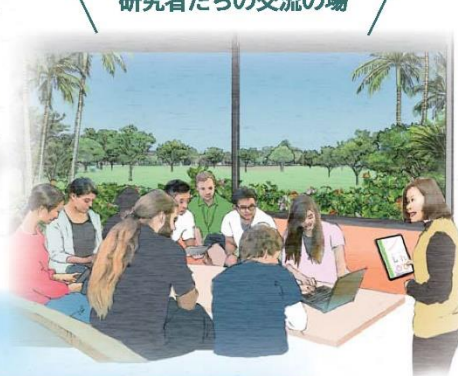
振興拠点ゾーン

「振興拠点ゾーン」は、とっても大きな公園がある自然豊かな場所です。緑に囲まれるまちなかには、最先端の研究所や企業が集まり、ビジネスと交流が活発に行われているイメージです。

最先端の研究



研究者たちの交流の場



新しい価値を生み出す場所
「沖縄振興コア」



研究やビジネスの
交流の場



世界の先端研究が行われる



ひらめきを生む
開放的な広場

図IV-19 [パネル⑧] 未来のまちのイメージ

未来のまちのイメージ

居住ゾーン

「居住ゾーン」は、豊かな緑のなかに住宅地が広がっています。地域の歴史的な場所や文化財が大切に保存されていて、美しい松の並木道が市民のいきいきの場をつないでいます。

緑豊かなゆとりある居住環境



地域の人が集まる交流施設



居心地のよい公園

伝統行事で 深める 地域のきずな



なんまちかいどう 並松街道を再生



歴史・文化遺産を身近に感じてもらう場



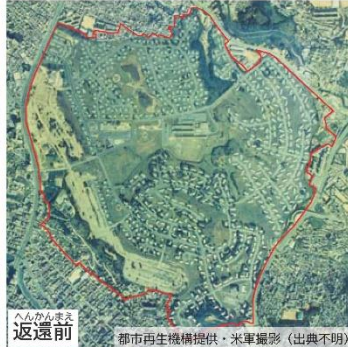
図Ⅳ-20 [パネル⑨] 未来のまちのイメージ

基地がまちになった例

・ みんなが知っている場所は、昔は基地だった！？ ・

^{なは} 1987年 那覇新都心地区

戦後、米軍住宅地として使用されてきましたが、1987年に全面^{へんかん}返還され、土地区画整理事業が実施されました。県立博物館・美術館、公共施設、大型ショッピングセンター、住宅施設が多数建設され、那覇市の活気あふれる場所となりました。



^{おろくかなぐすく} 1986年 小禄金城地区

戦前は農地が広がっていましたが、戦後に那覇飛行場の補助施設として使用されました。1965年から十数回にわたる返還を経て、1986年に全面返還となりました。1983年から土地区画整理事業が実施され、14年かけて現在のまちができました。



図Ⅳ-21 [パネル⑩] 基地がまちになった例

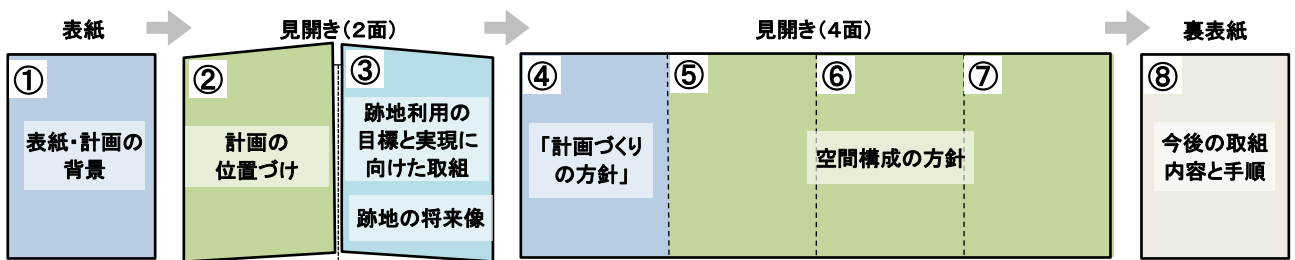
(5) パンフレットの制作

1) パンフレット制作の目的

「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の策定に合わせ、「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の内容を県民市民及び地権者に周知するための資料としてパンフレットを制作した。

2) パンフレットの構成

パンフレットの構成は、表面、中面を併せて8面構成、観音開きでA4仕上がりとした。



図Ⅳ-22 パンフレットの構成

普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた 「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」



令和3年 宜野湾市撮影

普天間飛行場の跡地利用について、沖縄県と宜野湾市の共同により、「普天間飛行場跡地利用基本方針（平成 18 年 2 月）」及び「普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた行動計画（平成 19 年 5 月）」を策定し、これらにもとづき、県市の共同調査や文化財・自然環境調査、関係者との合意形成に向けた取組を進め、「跡地利用計画」の策定に向けた中間的な成果となる「全体計画の中間取りまとめ」を平成 25 年 3 月に策定しました。

その後、計画内容の具体化に向けた「行程計画」を作成し、この行程計画にもとづき県民・地権者等への情報発信、意見聴取や関係機関との調整を行うとともに、有識者等への意見聴取や検討会議を通して継続的に取り組んできました。

「全体計画の中間取りまとめ」策定以降 9 年が経過し、国や沖縄県による広域都市基盤に関する検討の進展による計画条件の変更や文献調査等による現況の詳細把握、有識者検討会議、県民・地権者等の意見、社会状況等の変化等を踏まえ、「普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ（第 2 回）検討委員会」において、中間的な成果の更新版として「全体計画の中間取りまとめ（第 2 回）（委員会案）」の提言を取りまとめました。その委員会案をもとに「新・沖縄 21 ビジョン基本計画（令和 4 年 5 月）」を踏まえて、「全体計画の中間取りまとめ（第 2 回）」を策定しました。

今後、この「全体計画の中間取りまとめ（第 2 回）」をもとに、県民、地権者等の皆さまのご意見をお聞きしながら、沖縄全体の発展に資する跡地利用計画策定につなげていきたいと考えております。

令和 4 年 7 月

沖縄県

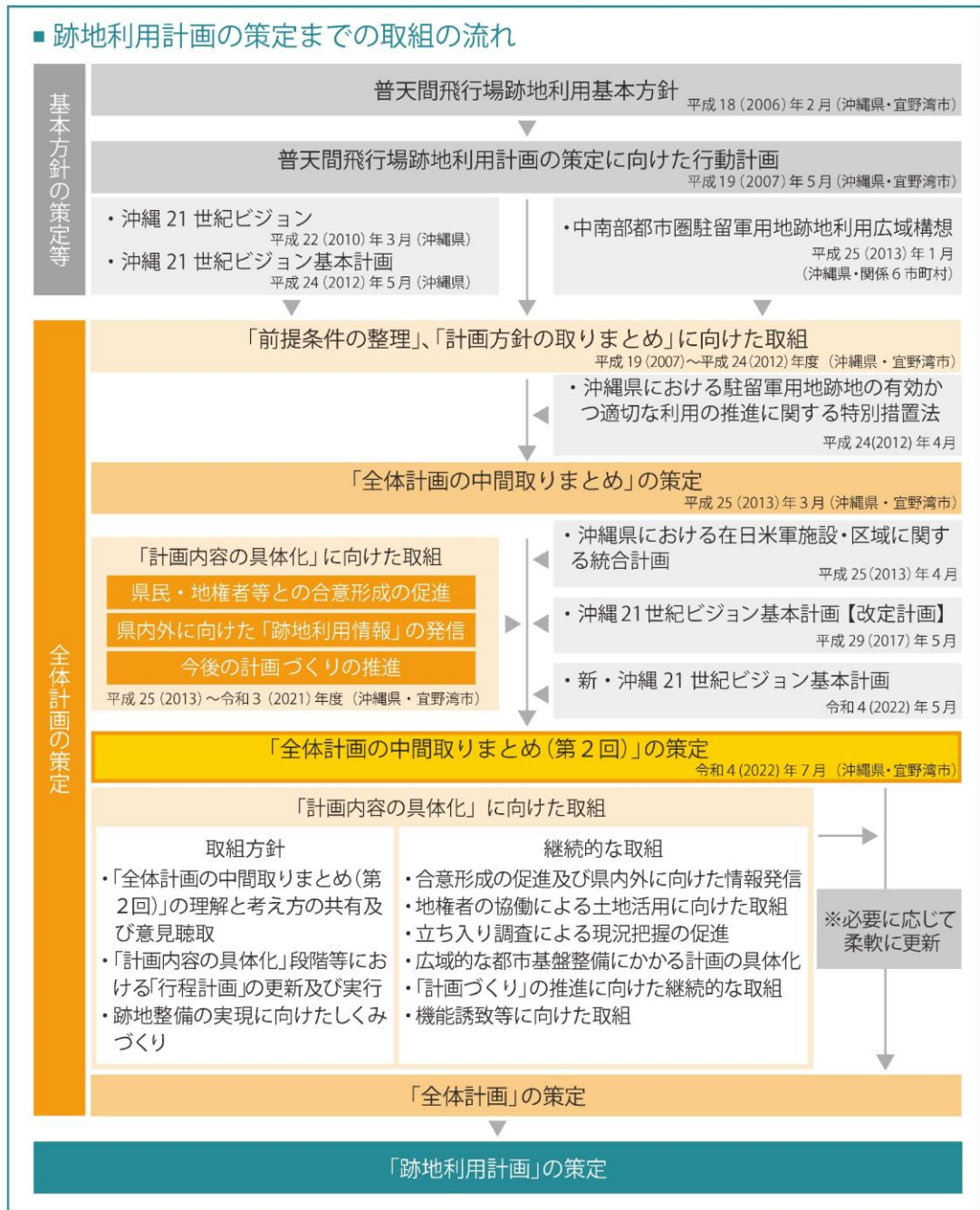
宜野湾市

図Ⅳ-23 パンフレット①

「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の位置づけ

「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」は、「跡地利用計画」の策定に向けた現段階で得られる計画条件にもとづく中間段階の計画の更新版で、今後の新たな計画条件にもとづく柔軟な計画更新を前提としています。本計画は、「跡地利用関係者との合意形成の促進」、「県内外に向けた跡地利用情報の発信」、「今後の計画づくりの推進」の3つの役割を果たします。

■ 跡地利用計画の策定までの取組の流れ



図IV-24 パンフレット②

計画づくりの方針

跡地の将来像「世界に誇れる優れた環境の創造～みどり（歴史・緑・地形・水）の中のまちづくり～」の実現を目指し、「計画づくりの方針」及び「計画内容の具体化」段階における“今後の取組の方向”を提案しています。今回の更新では、中南部都市圏の中心である跡地における新たな沖縄振興拠点の形成に向けて、跡地の将来像を体現し、まちづくり牽引する新たな価値を生み出す公民一体となった「大規模公園エリア」、その象徴となる「沖縄振興コア」を新たに打ち出しています。

環境づくりの方針

沖縄振興に向けた環境づくり

- ▶「揺るぎないまちづくりの方向性」の具体的方針として展開する沖縄振興に向けた環境づくりは、跡地周辺の生態系ネットワークと一体となった環境、緑の豊かさやその創造・保全に関する環境技術を広く適用し、さらに発展させていくことであり、跡地利用の重要な役割と受け止め、その成果を次世代に継承
- ▶これら環境づくりの方針にもとづく脱炭素社会の実現や最先端技術の導入などの取組により、新たな時代に対応した持続可能な沖縄の発展に寄与するとともにSDGsの推進に貢献

地域の特性を活かした環境づくり

- ▶地域の自然・歴史環境資源を共有財産として次世代に継承することを目標として、跡地を含む一帯の自然・歴史特性（樹林地・水環境・地下空洞・歴史）を活かした環境づくりを推進

土地利用及び機能導入の方針

新たな価値を生み出す「みどり」の創造

- ▶沖縄振興・国際交流の舞台を支えるため、新たな高付加価値を生み出す源として跡地全体に魅力ある緑地空間を公民一体となって創出

沖縄振興に向けた象徴となる空間の形成

- ▶大規模公園エリアの中核として、日本経済発展に貢献する沖縄振興の推進や多面的な価値創造の象徴となる「沖縄振興コア」を形成

多様な機能の複合によるまちづくり

- ▶都市の活力の発現や持続をもたらす新たな沖縄の振興拠点の形成に向けて、機能の重層的な導入や、機能融合ゾーンを含む三つの土地利用ゾーン（振興拠点、都市拠点、居住）による複合的なまちづくりを推進

土地利用需要の開拓と並行した計画づくり

- ▶普天間飛行場の跡地においては、跡地利用の目標の実現に向けて、県内外から跡地利用に参加する開発事業者や立地企業等を募り、新たな需要を開拓し、計画づくりを推進

都市基盤整備の方針

幹線道路等の整備

- ▶普天間飛行場の跡地では、跡地利用を契機とした県土構造の再編と周辺市街地と一体となった道路網整備を目標として、幹線道路網等の整備を推進

鉄軌道を含む新たな公共交通軸の整備

- ▶県土の均衡ある発展を支え、跡地のまちづくりの推進にあたって大きな原動力と期待される、鉄軌道を含む新たな公共交通の基幹軸の跡地への導入を踏まえた計画づくりを推進

緑地空間等の整備

- ▶「みどりの中のまちづくり」の実現に向けて、公民連携の下、公園・緑地と都市的土地利用が融合した大規模公園エリアを整備
- ▶水循環の継承や自然・歴史特性の保全・活用、周辺市街地からの利用といった跡地の特性も活かし、都市基盤施設として、都市全体の価値や魅力を高める公園・緑地（少なくとも約100ha以上）を整備

供給処理・情報通信環境等の整備

- ▶普天間飛行場の跡地においては、最先端の都市基盤技術を導入しながら、環境づくりと連携した供給処理施設の基盤と産業立地や多様な都市サービス導入のインフラとなる情報通信環境等を整備

周辺市街地整備との連携の方針

周辺市街地の改善と連携した跡地利用

- ▶周辺市街地との連携による相互の発展、基地所在に起因する課題の解決に向けて、中南部都市圏の都市機能の立地動向を踏まえた上で、周辺市街地との効果的な役割分担や連携による跡地の整備や、周辺市街地の再編及び生活利便の向上等に向けた取組を導入

跡地と周辺市街地にまたがる環境づくりと都市基盤整備

- ▶跡地と周辺市街地にまたがる一体的な環境づくりや都市基盤整備に向けて、跡地のまちづくりとあわせて、周辺市街地における計画づくりを推進

図IV-25 パンフレット③

空間構成の方針

目標とする跡地利用の姿をわかりやすく表すため、計画の前提となる活用すべき自然・歴史特性の配置を確認の上、要素別の配置方針を取りまとめ、それらを重ね合わせて配置方針図を作成しています。その際、活用すべき自然・歴史特性を「公園・緑地」として確保することを最優先としています。

要素別の配置方針

緑地空間配置

- ▶ 自然・歴史特性の保全活用に向けた緑地空間の配置
- ▶ 跡地振興の拠点となる緑地空間の配置
- ▶ 跡地全体を網羅するネットワーク状の緑地空間の配置
- ▶ 周辺市街地からの利用に配慮した緑地空間の配置

土地利用ゾーン配置

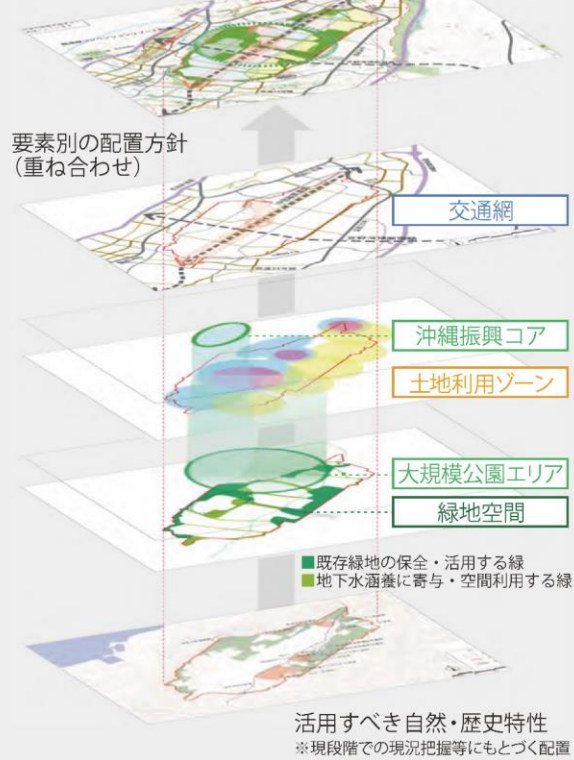
- ▶ 緑と都市の融合した沖縄振興コアの配置
- ▶ 沖縄健康医療拠点や西海岸リゾートエリアとの連携等に配慮した振興拠点ゾーンの配置
- ▶ 振興拠点ゾーンを補完する機能等を有する都市拠点ゾーンの配置
- ▶ 周辺市街地との地形的な連担性や宜野湾の歴史の気づきとして活用すること等を勘案した居住ゾーンの配置

交通網配置

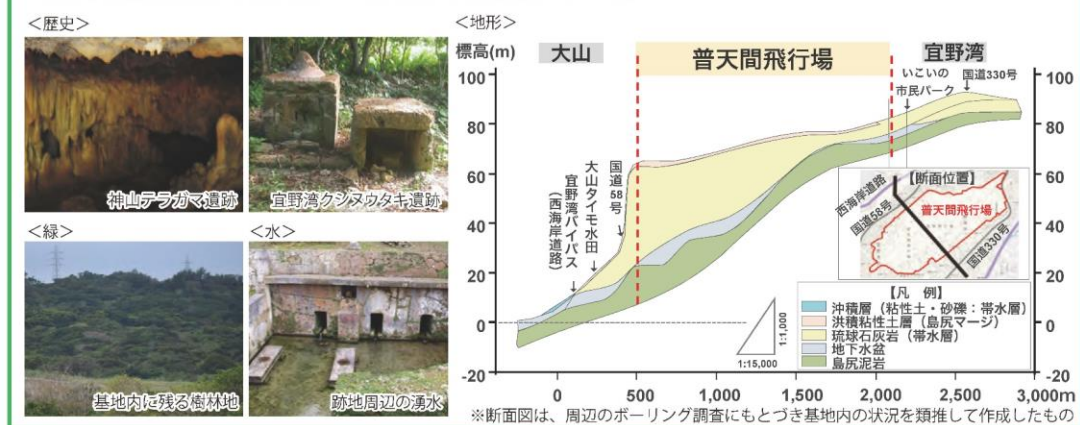
- ▶ 主要幹線道路（中部縦貫道路、宜野湾横断道路）のルートの配置
- ▶ 跡地と周辺市街地にまたがる幹線道路網（都市幹線道路、地区幹線道路）の配置
- ▶ 鉄軌道を含む新たな公共交通軸の配置

配置方針の考え方イメージ

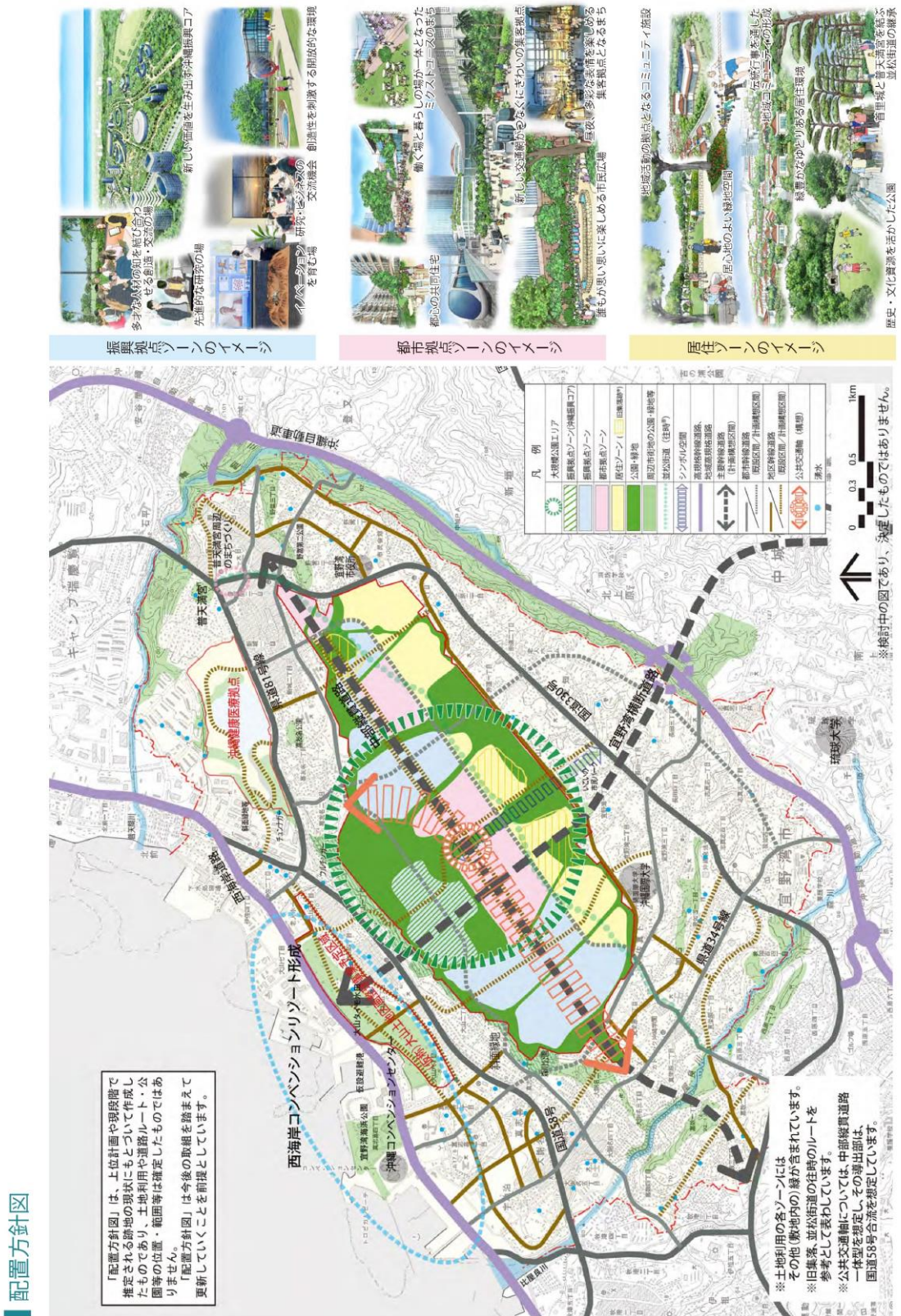
配置方針図



計画の前提となる活用すべき自然・歴史特性の一例



図IV-26 パンフレット④



図IV-27 パンフレット⑤⑥

跡地利用の目標と実現に向けた取組

「普天間飛行場跡地利用基本方針」等を踏まえ、「跡地利用計画」策定に向けた前提として、跡地利用の目標と目標実現に向けて取り組む事項を次のように位置づけています。

跡地利用の目標

新たな沖縄の
振興拠点の形成

「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」や「中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想」の実現に向けて、跡地に期待される施策を導入し、新たな沖縄の振興拠点を形成

宜野湾市の
新しい都市像を実現

跡地利用と周辺市街地整備の連携により、長期の基地使用に起因する都市問題の解決や新たな施策の導入により、次世代に継承する新しい都市像を実現

地権者による
土地活用を実現

基地使用により損なわれた地域特有の自然・歴史環境の再生に取り組み、社会経済状況の変化にも対応した新たな土地活用を実現

跡地利用の実現に向けた取組

沖縄振興に向けた
新たな需要の開拓

沖縄県や中南部都市圏の発展に向けて、県内外から跡地利用に参加する開発事業者や立地企業・来住者を募り、沖縄振興に向けた新たな需要を開拓

世界に誇れる
優れた環境の創造

跡地や周辺市街地の自然・歴史特性を活かして、緑豊かなまちづくりや持続可能な世界に誇れる環境づくりに挑戦

機能誘致等と土地活用の
促進に向けた
計画的な用地供給

計画的な用地供給により、跡地利用の目標の実現に向けた機能誘致の促進や産業等の創出に取り組み、地権者用地の土地活用を促進

跡地の将来像

上記のうち、新しい都市像を実現するための取組を、計画づくりにおける跡地の将来像と新たに位置づけ、その実現に向けた各方針の具体化を推進します。さらに、中長期的視点をもって跡地利用に取り組む中、時間が経過しても変わらない視点を揺るぎないまちづくりの方向性として位置づけています。

跡地の将来像

世界に誇れる優れた環境の創造 ～みどり(歴史・緑・地形・水)の中のまちづくり～

県内有数の自然と歴史・文化の蓄積を継承・発展させ、
都市機能を融合させた豊かな地域資源を活かしつつ自律的に発展していくまちづくり

揺るぎないまちづくりの方向性

広域的な
水と緑のネットワーク構造
の形成

跡地の緑は、中南部都市圏に残存する貴重な緑の一部であり、世界に誇れる優れた環境の創造を図るものとし、連続する緑の保全及びつなげる緑の創出を推進するとともに、緑を育む地下水及び湧水等の流域の保全を図ることで広域的なネットワーク構造を形成

沖縄振興の舞台となる
「みどりの中のまちづくり」

豊かな地域資源を活かしつつ自律的に発展していくまちづくり(みどりの中のまちづくり)の推進は、本地域特有の諸要素をシマの基層(風土に根ざした琉球の文化)の総体として保全・活用及び21世紀の万国津梁を体現する国際交流の拠点の形成を図るものとし、多様な人々が集い、交流し、繁栄と平和を創る拠点の形成を推進

環境の豊かさが
持続するまちづくり

跡地利用の目標である「新たな沖縄の振興拠点の形成」を目指し、アジア太平洋の平和の架け橋として、人々が自由に集い、交流し、多様な文化がつながる「21世紀の万国津梁」の舞台を創造するとともに、深刻化する環境問題に積極的に取り組み、自然災害に対して強くしなやかなまちづくりを目指し、環境の豊かさが持続するまちづくりを推進

図Ⅳ-28 パンフレット⑦

今後の取組内容と手順

これまでの検討成果にもとづき、「跡地利用計画」策定に至る「計画内容の具体化」段階等における主要な取組の内容や手順等を次のように取りまとめています。

今後の計画内容の具体化に向けた取組方針

「全体計画の中間取りまとめ
(第2回)」の理解と
考え方の共有及び意見聴取

「計画内容の具体化」段階等
における
「行程計画」の更新及び実行

跡地整備の実現に
向けたしくみづくり

「計画内容の具体化」に向けた継続的な取組

合意形成の促進及び県内外に向けた情報発信

継続的な県民・市民・地権者等との様々な周知や意見交換の場を通じ、計画への理解を促進するとともに、県内外に向けた情報を発信

地権者の協働による土地活用に向けた取組

地権者等の計画への理解促進・意向醸成を図るとともに、今後の跡地における機能誘致に向けた地権者の土地活用意向を醸成し、地権者の協働によるまとまりある用地供給の見通しや地権者の組織づくり等を促進

立ち入り調査による現況把握の促進

自然環境や文化財にかかる計画条件を明らかにするために、早期の立ち入り調査による現況把握を促進

広域的な都市基盤整備にかかる計画の具体化

国家プロジェクトの導入に向けた取組を推進するとともに、公共用地の先行取得の取組や広域的な都市基盤整備にかかる今後の計画づくりの進捗とあわせて、跡地における計画内容を具体化

「計画づくり」の推進に向けた継続的な取組

「全体計画の中間取りまとめ」以降の検討経過を踏まえ、自然・歴史特性の保全・活用方策にかかる計画の具体化、技術革新への対応の備え、周辺市街地整備との連携に向けた取組等についても継続的に取り組み、その成果を計画づくりに反映

機能誘致等に向けた取組

戦略的な振興拠点形成のあり方を検討の上、地権者の協働による用地供給見通しをもとに、県内外からの需要開拓に向けた情報発信を行い、機能誘致の見通しを明らかにするとともに、産業等の創出にかかる方策を検討し、土地利用にかかる計画条件を確保

跡地利用計画の策定

分野別の計画内容の更新・詳細化

新たな計画課題・計画条件への対応による計画内容を更新した「全体計画」を作成の上、跡地利用計画に必要な計画の詳細化に取り組み、分野別の計画内容(環境づくり、土地利用及び機能導入、都市基盤整備、周辺市街地整備との連携)を取りまとめ

跡地利用計画の策定

「跡地利用計画(案)」をもとに跡地利用関係者の合意形成を図り、「跡地利用計画」を策定

お問い合わせ先

沖縄県企画部県土・跡地利用対策課(跡地利用推進班)

☎ 098-866-2040 <https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/tochitai/index.html>

宜野湾市基地政策部まち未来課

☎ 098-893-4401 <https://www.city.ginowan.lg.jp/soshiki/kichi/1/index.html>

みんなで考える普天間飛行場の未来



沖縄県ホームページ 普天間飛行場未来予想図

図Ⅳ-29 パンフレット⑧

2. 県民フォーラム等の企画・開催運営

本節では、普天間飛行場跡地利用県民フォーラムを開催し、今年度策定した「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」及び普天間飛行場跡地利用についての取組を県内外に広く合意形成・情報発信を行った。

（1）普天間飛行場跡地利用県民フォーラムの概要

「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」及び普天間飛行場跡地利用に向けての取組を、県内外に広く周知・発信し、返還後のまちづくりに関する気運醸成を図ることを目的に県民フォーラムを開催した。また、同会場で「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の考え方を解説したパネル展を開催した。興味・関心に繋げる仕掛けとして、跡地一体の昔の風景を復元した原風景模型や地形模型、地層模型の展示、未来のまちを体験できるコーナー（バーチャル普天間未来シティ）を設置することで、これまで跡地利用に関する情報に触れる機会の少なかった県民・市民の認知度向上と、今後の展望に夢を抱いてもらう機会を創出した。

併せて、アンケート調査（アンケート用紙、Web アンケート）を実施することにより、広くフォーラム参加者の意見を聴取した。

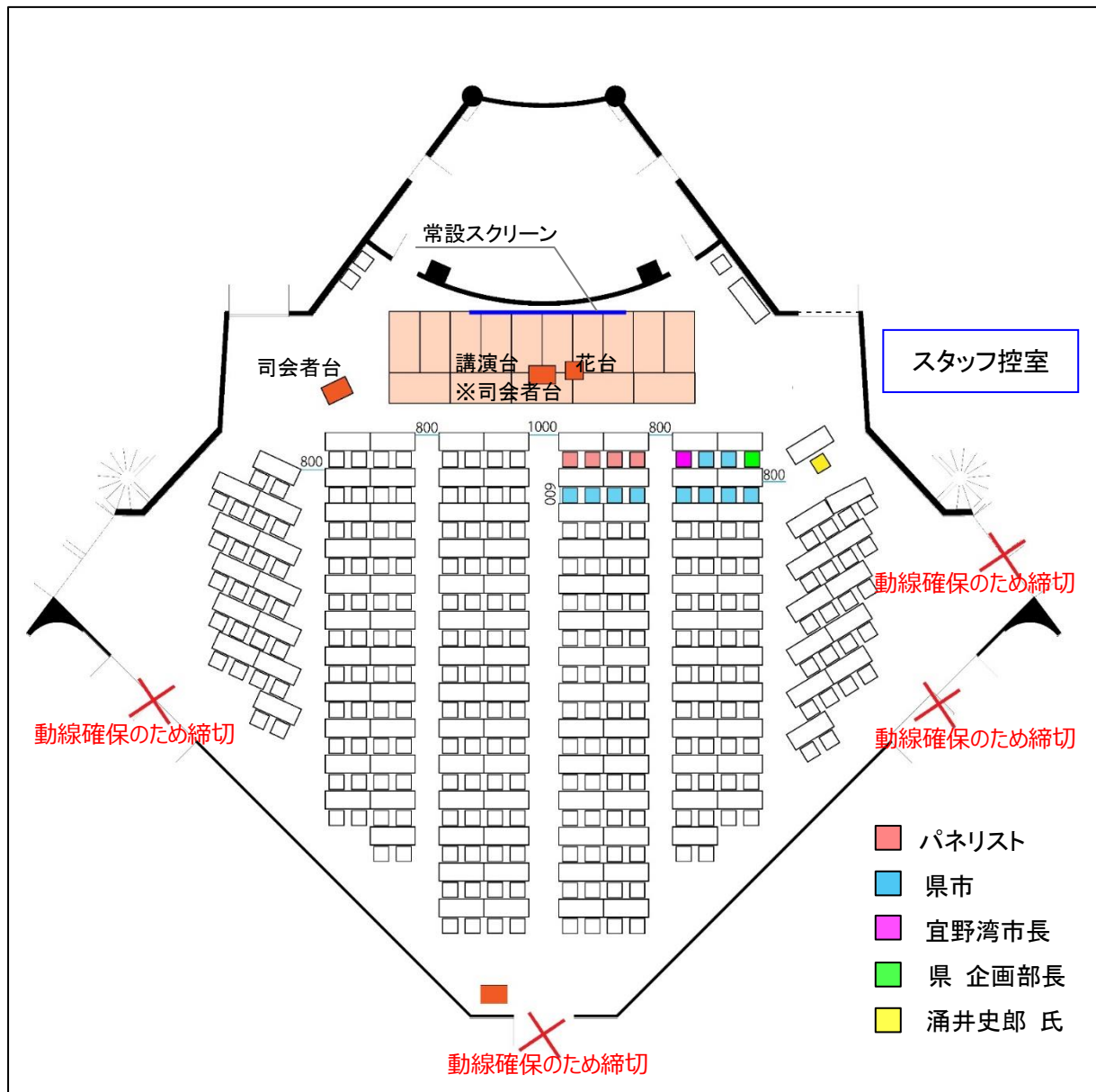
1) 開催概要

開催日時及び場所は以下の通りである。

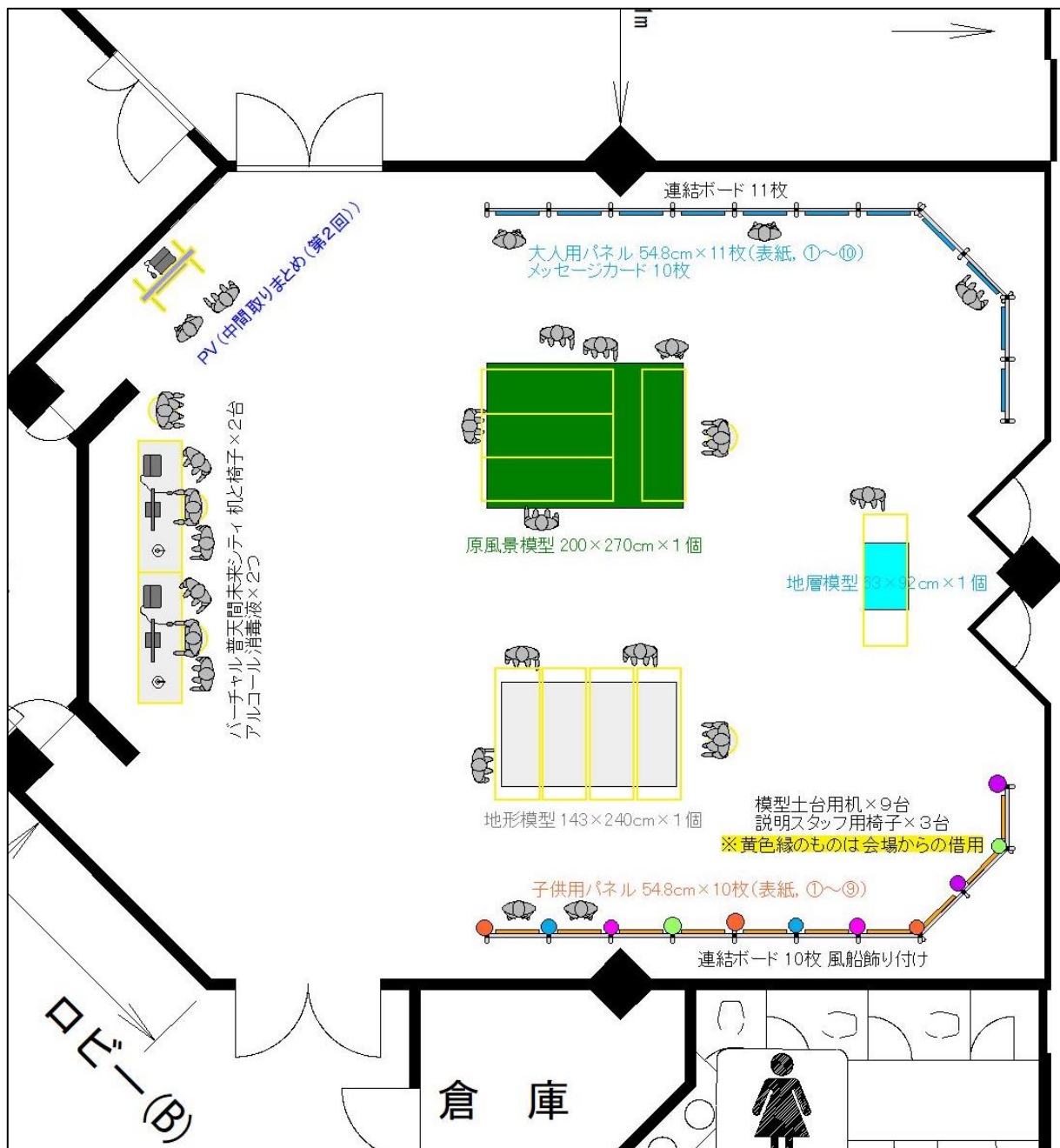
また、フォーラムの内容をより広く発信する為に、期間限定のアーカイブ配信を実施した。

表Ⅳ-1 県民フォーラムの開催概要

名称	普天間飛行場跡地利用県民フォーラム-普天間飛行場未来予想図2.0-
日時	令和4年11月5日（土曜日） 14:00～16:10（基調講演・パネルディスカッション） 11:00～17:30（パネル展）
場所	沖縄コンベンションセンター会議棟A1（基調講演・パネルディスカッション） 沖縄コンベンションセンター会議棟A2（パネル展）
参加費	無料
定員	会場参加：250名、オンライン参加（Zoom）：100名
プログラム	第1部：基調講演「沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用にむけて」 講師：涌井 史郎 氏（東京都市大学 特別教授） 第2部：パネルディスカッション「魅力的なまちを私たちの手で育てていくには」 コーディネーター：石垣 綾音 氏（まちづくりファシリテーター） コメンテーター：涌井 史郎 氏（東京都市大学 特別教授） パネリスト：真喜屋 美樹 氏（沖縄持続的発展研究所 所長） 又吉 信一 氏（宜野湾市軍用地等地主会会長） 福原 海里 氏（琉球大学学生、OrgaNect 合同会社代表）
アーカイブ 配信	沖縄県の公式 YouTube チャンネルにおいて2022年12月22日～2023年2月28日迄公開した。



図IV-30 県民フォーラム会場レイアウト



図IV-31 パネル展示会場レイアウト

2) テーマ設定の趣旨（基調講演・パネルディスカッション）

【第1部：基調講演】

テーマ	沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用にむけて
テーマ設定の趣旨	跡地利用が先送りになる中で県民や地権者の関心も薄れがちな今、改めて関心を持ってもらう。自己の所有する土地単位だけで考えるのではなく、全体の土地利用の工夫によってまちの価値を上げ、県民の暮らしが豊かになるというビジョンを自分ごととして感じてもらう機会にしたいと、テーマを設定。

【第2部：パネルディスカッション】

テーマ	魅力的なまちを私たちの手で育てていくには
テーマ設定の趣旨	基調講演で示された環境の時代の魅力的なまちのイメージを受け、そのようなまちがどんな価値を持つか、どう県民の豊かさにつながるかについて、議論を展開。さらにそのようなまちを普天間飛行場跡地でどう実現するか、自分たちはどう関われるのかを討論。 都市政策の専門家、地域の複雑な事情を抱えつつ跡地利用への期待を伝える地権者代表、そしてこれからの沖縄を担う若い世代といった、多様な立場の方々に登壇いただき、聴衆である県民の理解と共感を深める場とする。

3) 周知方法

周知方法は以下の通りである。次頁（Ⅳ-36～37 頁）のチラシを配布・掲載。

表Ⅳ-2 県民フォーラムのチラシ配付・掲載先一覧

配布・掲載先		備考
①	跡地利用関係市町村／国関係機関への配布	
②	宜野湾市内小中学校／沖縄国際大学への配布	13 校
③	軍用地等地主会連合会への配布	
④	広報誌ぎのわん	2022 年 10 月 11 日掲載
⑤	筥柄暦	2022 年 10 月 12 日掲載
⑥	宜野湾市商工会 HP	2022 年 10 月 13 日掲載
⑦	社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会（土地連）HP	2022 年 10 月 13 日掲載
⑧	宜野湾市 SNS（LINE）	2022 年 10 月 17 日掲載
⑨	沖縄コンベンションセンターHP（イベント案内）	2022 年 10 月 17 日掲載
⑩	那覇商工会議所 HP	2022 年 10 月 19 日掲載
⑪	ゴーやーどっとネット	2022 年 10 月 19 日掲載
⑫	沖縄県・宜野湾市 HP	2022 年 10 月 24 日掲載
⑬	週刊レキオへの掲載	2022 年 11 月 3 日掲載
⑭	週刊ほ～むぶらざ	2022 年 11 月 3 日掲載
⑮	宜野湾市自治会への配布	23 地区

普天間飛行場跡地利用県民フォーラム

普天間飛行場 未来予想図2.0

令和4年 **11/5** (土)
14:00 ~ 16:10
(開場 13:30)

会場：沖縄コンベンションセンター
会議棟 A1



プログラム

開会あいさつ (沖縄県・宜野湾市)



第1部 基調講演

14:10 ~ 15:00

沖縄のポテンシャルを生かした
価値ある跡地利用にむけて

講師：涌井 史郎 氏 (東京都市大学 特別教授)

休憩 普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた
「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」のプロモーションビデオ上映

第2部 パネル ディスカッション

15:10 ~ 16:10

魅力的なまちを
私たちの手で育てていくには

コーディネーター：まちづくりファシリテーター
石垣 綾音 氏

コメンテーター：東京都市大学 特別教授
涌井 史郎 氏

パネリスト：
沖縄持続的発展 宜野湾市雇用用地等
研究所 所長 地主会会長
真喜屋 美樹 氏 又吉 信一 氏 琉球大学学生/
OragaNect
合同会社代表
福原 海里 氏

入場無料
定員 250 名
オンライン同時配信

お申し込みはこちら【事前予約制】※



オンラインでの参加を希望される方も事前予約をお願いします。
オンライン参加用のURLについては、事務局より後日ご連絡いたします。
<https://forms.office.com/vr77nRNCktcPh>

パネル展 同時開催

会場：会議棟 A2
11:00 ~ 17:30

「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の考え方を解説したパネル展を開催します！お子様向けのパネルや昔の集落の様子が見られる模型、未来のまちを体験できるコーナーなどもご用意。ぜひお気軽にお越しください！



※事前にお申込みをされない場合でも参加できますが、席に限りがあるため入場できない場合があります。

主催 沖縄県/宜野湾市

問合せ 沖縄県 企画部 県土・跡地利用対策課 跡地利用推進班 TEL.098-866-2040
宜野湾市 基地政策部 まち未来課 基地跡地計画係 TEL.098-893-4401

図Ⅳ-32 チラシ (表面)

県民フォーラムの開催について

沖縄県と宜野湾市では、返還が合意されている普天間飛行場の跡地利用に向けた検討を進めています。このたび、その検討結果を取りまとめた、普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」※を策定しました。

これからも県民市民や地権者、未来を担う若者たちから多くの意見を聴きつつ検討を重ね、時代や社会の変化に柔軟に対応しながら更新を図っていく予定です。

みんなで沖縄の発展につながる普天間飛行場の跡地利用を考えていきましょう。

※跡地利用計画策定に向けた中間的な成果となる「全体計画の中間取りまとめ」を平成25年3月に策定し、それ以降の検討経過、社会状況等の変化を踏まえ、令和4年7月に「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」を策定しました。

プログラム

13:30 開場

14:00 開演・主催者挨拶 (沖縄県・宜野湾市)

14:10 第1部 基調講演 東京都市大学 特別教授 涌井 史郎 氏
沖縄のポテンシャルを生かした
価値ある跡地利用にむけて

15:00 休憩 「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の
プロモーションビデオ上映

15:10 第2部 パネルディスカッション
魅力的なまちを
私たちの手で育てていくには

16:10 終了

会場へのアクセス



講演者及びパネリストのプロフィール

基調講演講師・コメンテーター



涌井 史郎 氏

TBS「サンデーモーニング」等でコメンテーターとしても活躍。日本の国立公園を世界水準とすることを目標とした「国立公園満喫プロジェクト」の有識者として座長を務める。

コーディネーター



石垣 綾音 氏

まちづくりファシリテーター。「人と土地をつなぐ、コミュニティをエンパワメントする」をモットーに、「こみゅとば」として県内各分野の個人や団体とコミュニティと場づくりに関する活動を行なう。

パネリスト



真喜屋 美樹 氏

名桜大学准教授を経て現職。専門は都市政策。普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会委員、浦添市軍用地跡地利用計画審議委員会会長。



又吉 信一 氏

宜野湾市軍用地等地主会会長、(一社)沖縄県軍用地等地主会連合会会長、普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会委員。



福原 海里 氏

琉球大学国際地域創造学部在学。OragaNect合同会社を設立し、「農家のあらゆるところにマネタイズポイントをつくる」事業を展開している。

普天間飛行場の跡地利用計画に向けた検討に関して、くわしくは、「普天間未来予想図」ホームページをご覧ください。



図IV-33 チラシ(裏面)

(2) 実施報告

来場者数、アンケート回収数は以下の通りである。

表Ⅳ-3 来場者数及びアンケート回収数・回収率

	会場	オンライン	合計
来場者数	137	52	189
アンケート回収数	110	9	119
回収率	80.3%	17.3%	63.0%



図Ⅳ-34 会場風景

1) 基調講演の概要

[沖縄経済の発展について]

- ・最も肝心の沖縄らしさが忘れ去られている印象を受ける。NBS (Nature-based Solutions: 自然を基盤とした解決策)、専門用語で「地霊学」と言うが、「土地に霊が住んでいるから、その土地の言うことをよく聞け」、こういった教えを一番大事にできた沖縄が、それを忘れてしまっている。
- ・那覇から名護に至る国道 58 号沿いはビルで埋め尽くされており、空と海にしか沖縄らしさを見ることができない。海陸そして空の一体性というのがどんどん失われている印象を受ける。

[自然との共生について]

- ・我々は生態系サービスがもたらす自然の恩恵なくしては存在できないことを、あらためて認識する必要がある。
- ・プラネタリーバウンダリー（地球の限界）により成長戦略を取ることが難しくなる。自然と対話ができる環境づくりが求められる。
- ・コロナや自然災害の激甚化は地球からの警告である。SDGs の 17 の目標は地球で生きていく上でのマナーであり、マナーを身に着けた上で、どのようにして自然と共生するのか考える必要がある。
- ・気象災害、例えば海流の変化や大気の変化は二酸化炭素の削減により大きく緩和することが可能。自然を資本として考え、経済の中に取り入れることで、災害に対するレジリエンス性が高い地域になり、グリーンインフラ、DX (デジタルトランスフォーメーション) の調和を図ることができる。

[普天間飛行場について]

- ・普天間飛行場には拝所や井戸といった、スピリチュアルな資源があり、普天満宮まで松並木を植栽し琉球王が祭祀に赴いた地である。中心となる穴、風水学で言う「きけつ」は普天間であると考えている。
- ・琉球王国時代に蔡温は風水を取り入れ、自然との共生を図ってきた。蔡温を生んだ沖縄で開発という一本槍で良いのか。

[跡地利用計画について]

- ・普天間の地区特性をさらに濃密に計画に投影し、現在価値より将来価値を創出する考え方に期待したい。
- ・普天間の跡地は世界のモデルディスプレイエリアとして「環境と文化により多様性を尊び世界に対して優れた環境と文化、そして平和のモデルを示すことにより栄える地」として跡地利用を考えてほしい。
- ・デジタル革命の浸透と環境への配慮、そしてデジタルがもたらすストレスの低減と創造性に寄与する公園緑地を核として、ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) なのは当然とした環境不動産価値を重視した開発、そして業務床がこれからますます求められる事を踏まえた計画であってほしい。
- ・自動車を中心とした交通計画とはせず、公共交通ならびにパーソナルモビリティを導入した、「人々の出会いとグリーンコミュニティ形成が生じやすい空間」といった方向性としたい。

- ・文化、歴史的な伝統はお金をかけても作れるものではない。宝だと思いそれを中心とした沖縄のスピリチュアルゾーン、あるいは哲学を実行していくゾーンに変えてほしいというのが私の考えである。

2) パネルディスカッションの概要

(涌井 史郎 氏)

- ・長いスパンの中で価値を失わない、むしろ価値を上げていくっていう考え方が非常に大事である。環境は将来の不動産価値を支えるということを認識する必要がある。
- ・これからは魅力だけでは足りない。これから作る必要があるのはその土地が持つ地力である。その土地にどのくらい惹きつける力があるのか、地力がないと、世界中の魅力との競争になる。その土地にしかない価値を生み出すことが非常に重要である。
- ・自然の特性、土地の持っている特性がマッチングしないことには地力を引き出せない。この土地が持つ価値を自覚しないと光らない。
- ・無価値の価値化という現象がこれから起きる。今まで価値がない、経済価値がないと思っていたところに実は経済価値があるという時代が必ず来る。土地の要するに特性である。それを大事にしていきたい。

(福原 海里 氏)

- ・教育面に力を入れて頂きたい。多くの企業や研究機関を誘致するとのことであれば、子ども達の視野を広げることに繋がる。
- ・飲食店から出た生ゴミを堆肥化して畑に戻す、普天間飛行場跡地だけで循環するような循環型都市をつくってはどうか。
- ・一口に緑化といっても色々な考え方がある。食料問題を見据え、市民一人ひとりが、自分たちで生産することに着目した緑化や家庭菜園の面積も有機栽培の面積に含め、100年後も続く農業環境をつくる意味での緑化など、一段上の緑化のあり方について考える必要がある。

(又吉 信一 氏)

- ・我々地権者が合意形成をどのように進めていくのか、それが大きな課題である。
- ・普天間飛行場 476ha の中に 100ha の国営公園を設置することを地主会総会で決議している。水と緑、そしてその中に歴史と文化も反映しながら、いかにして付加価値をつけていくかが重要である。
- ・返還と跡地利用は両輪であり、地権者が安心して行政と一緒にまちづくりを行うのが我々地権者の役目であると考えている。
- ・宜野湾市にはたくさんの伝統文化がある。将来の大きな宝物になるという共通認識を持ち、今できることは何か共通認識しながら、未来へ繋げていくことが重要である。
- ・持続可能な環境の循環等、基本路線を決めて、その後は時代に応じて柔軟に対応できるようにしておく必要がある。基本路線を継承していくことが責務であると考えている。

(真喜屋 美樹 氏)

- ・広大な跡地は当然地権者の皆さんに所有権があるが、同時に私たち県民みんなが訪れて生活する空間でもあると考える。どういう未来を描きたいのか、ハード面、ソフト面を含めて皆で考えていく必要がある。

- ・ハンビーやアメリカンビレッジ、ライカム、パルコシティは跡地利用のランドマークのようになっている。今世界の潮流は環境が軸となっており、独自の認証制度や条例をつくることで、魅力的なまちをつくっていく必要がある。
- ・地権者の利益にも十分配慮し、宜野湾市全体として跡地利用によってどのように市民に利益を還元できるのか。県としても、沖縄県全体を偏りなく発展させるために普天間という広大な空間にどんな役割を持たせてどんな発展プランを描くのか、周辺地域とのバランスはどうなっているのか、再開発によって得られるメリットをどのように県民の利益と結びつけるのかというような積極的な関わりが重要である。
- ・他の跡地利用の手法をそのまま利用することはできない。沖縄の持つ地力、オリジナリティを深掘して、そこにしかないものを作っていくことが大事である。
- ・小さな試みかもしれないが、市民一人ひとりが集まり勉強会・学習会をするということは実は最も現実的であると考える。自分達が住むまちはどんなまちにしたいのか考えていくことが重要である。

3) 事前予約における参加者意見について

フォーラムの参加を希望する方には QR コードまたは URL 読み取りによる事前予約制とし、申込フォームを Microsoft Forms を活用し作成した。

参加形式、メールアドレス（フォーラムの詳細を後日案内）を確認することで、参加者数を把握した。また、パネルディスカッションの際、参加者意見として紹介するため、登壇者に聞いてみたいご質問、跡地利用に期待することを事前予約の段階で確認し、パネルディスカッションにおけるコーディネートの展開材料とした。

1. 希望する参加形式 *

☐ 会場参加

☐ オンライン参加

2. メールアドレス
フォーラムの詳細を後日、案内させていただきます。
オンライン参加を希望される方には、参加用URLを後日、送付致します。
※「hutenmajimukyoku@gmail.com」からのメールが届くようにメールの設定をお願いします。

*

回答を入力してください

3. メールアドレス（確認用）
念のため、改めてメールアドレスをご入力ください。 *

回答を入力してください

4. ○登壇者に聞いてみたいご質問があればお書きください。
パネルディスカッションの中で参加者のご意見として紹介させて頂く予定です。
（但し、全てのご意見を紹介するものではありません。）

回答を入力してください

5. ○跡地利用に期待することがあればお書きください。

回答を入力してください

図IV-35 申込フォーム画面

①「登壇者に聞いてみたい質問」、「跡地利用に期待すること」まとめ

登壇者に聞いてみたい質問

- ・ 中間取りまとめを大きく変えた理由は何か。
- ・ 宜野湾市の豊富な湧水の源と言われる普天間基地は約7割が緑地帯ですが返還後の整備はどのようにされるのかお聞きしたいです。
- ・ これほど壮大なプロジェクトにあたって、誰が指揮者（最終責任者）となるべきか。市にできるのか。県か、国か。
- ・ 跡地利用に向けて今後どのようなことに優先して取り組むべきか。
- ・ 現在の軍用地料を超える収入を生み出せるかが跡地利用の課題だと思うが、何かアイデアはあるか。
- ・ 今後、本格的な高齢化社会を迎える中で公共交通を充実させたコンパクトシティの充実を図る必要があるが、今後どのような取組が必要となるか。
- ・ 実現できる未来予測をどのくらい先と考えているのか？その時期によってその時代に合った展開となると思うのですが。
- ・ 沖縄中南部都市圏では一定程度の規模を有する緑地が少ない現状が見受けられる。普天間飛行場跡地に都市公園として「国立公園」の誘致が挙げられているが可能性についてお聞きしたい。
- ・ 涌井氏へ、普天間飛行場は民有地が多いため、跡地利用の際に公園緑地などのゆとりある空間があまり取れないという課題に対する解決方法は。
- ・ 沖縄本島では自然的土地利用よりも都市的土地利用が過剰なのではないかと感じます。いわゆる持続可能な発展を前提とした場合、適正な人口規模、市街地の規模はどのくらいとお考えでしょうか。
- ・ 那覇空港から、おもろまち、キンザー跡地・浦添西海岸、普天間、北谷まで、一体でのまちづくりができると、より魅力、価値が高まると想像します。どうすれば一体で取り組むことができますか。このような場合、どのような枠組みが必要なのでしょうか。
- ・ 普天間基地の緑地で浸透した雨水などがその周辺、例えば大山の田んぼ、森川公園の泉等、周辺の湧き水の源水となっています。現在跡地利用の計画が進められている西普天間地区のような開発が進むと湧き水や田んぼの水がかれてしまう事になりますが、この辺りの考え方を教えてください。
- ・ 普天間飛行場であるということを活かした活用が考えられるでしょうか。また、具体方策があればご教授願いたい。
- ・ 宜野湾市軍用地等地主会として、どのような跡地利用を望んでいるのかを聞きたい。
- ・ 跡地に土地を持っていない人でも関わられるようなまちづくりとして、何が考えられますか。愛着を持てる地域を育てていくには、どのような方法がありますか。
- ・ カーボンニュートラルと開発。

跡地利用に期待すること

- ・ 付加価値高まることを期待します。
- ・ 西海岸地域とリンクした観光施設の建設。
- ・ 地主以外の市民、県民の意見を広くとりいれてほしい。
- ・ 沖縄の振興にとどまらず日本の発展及び世界の平和に貢献できる跡地利用に期待しています。

- ・ 庶民の暮らしの場であったからこそ、跡地利用においては人類に普遍的な価値を体现し、発信する場となって欲しい。
- ・ 跡地開発による経済活性化。新都心のような主要な街ができることによる交通集中の分散。（那覇への交通集中への負担減）
- ・ 県土を東西に連絡する幹線道路を位置付けることによる、交通移動の円滑化。（県内は強固な東西道路が、少ないため）
- ・ 早期に返還され、早く跡利用に取り組めるよう期待している。
- ・ 市のシンボルとなる建物の建築、交通渋滞緩和の実現。
- ・ 沖縄県が力強く発展できる基盤となることを期待します。
- ・ 沖縄中南部都市圏内における基地跡地利用状況をみると那覇市新都心地域に代表されるように地権者等の意向で大型スーパーの誘致を狙った商業業務地域の指定が多々見られる。普天間飛行場跡地については中南部都市圏の中心に位置する事から土地利用についてはしっかりと検討する必要があると思う。
- ・ 大規模国営公園と公園 PFI 事業によるまちづくり事業。
- ・ 宜野湾市の緑の基本計画を踏まえた、緑豊かな大規模公園の配置と環境にやさしいエコロジカルな公共交通システムの導入を期待しています。
- ・ 国際的に開かれた都市になることは歓迎すべきであるが、地元民が近寄りがたい街にはなって欲しくない。
- ・ 「自分の土地が高く売れるか否か」という視点から、地主のみなさんが解放される跡地利用プロセスが必要だと思います。沖縄市のアリーナが「ゼロエネルギーアリーナ」と謳っていながら、専門家から見るとそれとは程遠い施設になっているので、謳えばいいものでもないですが、ゼロカーボンシティを本気で作るとか、エネルギー地域経済好循環を実現させるとか、世界中から「真似したい」と思われるようなまちづくりをしませんか？
- ・ 宜野湾市では、所々に緑（緑地）がありますが、ほとんどが市街地化されています。唯一自然の森や緑が残っているのは普天間基地及びその周辺の米軍施設内だけとなっている状況です。普天間基地の跡地利用については、アクセス性の高い都市型の大規模公園（森・緑地）の整備し、一日過ごせる様な観光資源となる事を期待しております。
- ・ 人材育成等のソフト部分に係る資金導入を図ることにより、基地跡地について、次世代のための有効活用がなされるよう跡地利用計画の具体案が策定されることを期待。
- ・ 宜野湾市の緑の基本計画に基づいた緑豊かな大規模公園の整備を期待しています。また、環境にやさしいエコな地区内公共交通ネットワークの整備を期待しています。
- ・ 宜野湾市民（地権者）の意見だけではなく、県民の意見も反映できるような跡地利用計画にしてほしい。
- ・ 現下の世界情勢では、基地返還のタイミングを見通す事は困難ですが、跡地利用計画の策定に向けては不断の取組が必要かと思います。
- ・ たくさんの人が集まれる場所になればいいなと思います。
- ・ 若い人からお年寄りまで1日中楽しめる場所になって欲しいです。
- ・ 画一的な土地利用ではなく、この地域だからこそその魅力を発揮できる場所になってほしいです。
- ・ 何処（県外、県内）にでもある様な街並みにならない様にして欲しい。
- ・ 世界の模範となる低炭素社会と平和都市の具現化。

②パネルディスカッションに向けた意見整理

事前予約の段階で頂いた「登壇者に聞いてみたい質問」、「跡地利用に期待すること」を踏まえ、下表の通り整理した。

パネリスト向けの質問		
No.	登壇者に聞いてみたい質問	関連するコメント
1	今後、本格的な高齢化社会を迎える中で公共交通を充実させたコンパクトシティの充実を図る必要があるが、今後どのような取組が必要となるか。	新都心のような主要な街ができることによる交通集中の分散。(那覇への交通集中への負担減) 県土を東西に連絡する幹線道路を位置付けることによる、交通移動の円滑化。 (県内は強固な東西道路が、少ないため)
2	沖縄本島では自然的土地利用よりも都市的土地利用が過剰なのではないかと感じます。いわゆる持続可能な発展を前提とした場合、適正な人口規模、市街地の規模はどのくらいとお考えでしょうか。	沖縄中南部都市圏内における基地跡地利用状況をみると那覇市新都心地域に代表されるように地権者等の意向で大型スーパーの誘致を狙った商業業務地域の指定が多々見られる。普天間飛行場跡地については中南部都市圏の中心に位置する事から土地利用についてはしっかりと検討する必要があると思う。 宜野湾市では、所々に緑(緑地)がありますが、ほとんどが市街地化されています。唯一自然の森や緑が残っているのは普天間基地及びその周辺の米軍施設内だけとなっている状況です。 普天間基地の跡地利用については、アクセス性の高い都市型の大規模公園(森・緑地)の整備し、一日過ごせる様な観光資源となる事を期待しております。
3	那覇空港から、おもろまち、キンザー跡地・浦添西海岸、普天間、北谷まで、一体でのまちづくりができると、より魅力、価値が高まると想像します。どうすれば一体で取り組むことができますか？このような場合、どのような枠組みが必要なのでしょう。	西海岸地域とリンクした観光施設の建設。
4	跡地利用に向けて今後どのようなことに優先して取り組むべきか。	—

パネリスト向けの質問		
No.	登壇者に聞いてみたい質問	関連するコメント
5	現在の軍用地料を超える収入を生み出せるかが跡利用の課題だと思うが、何かアイデアはあるか。	「自分の土地が高く売れるか否か」という視点から、地主のみなさんが開放される跡地利用プロセスが必要だと思います。沖縄市のアリーナが「ゼロエネルギーアリーナ」と謳っていながら、専門家から見るとそれとは程遠い施設になっているので、謳えばいいものでもないですが、ゼロカーボンシティを本気で作るとか、エネルギー地域経済好循環を実現させるとか、世界中から「真似したい」と思われるようなまちづくりをしませんか。

4) アンケート結果

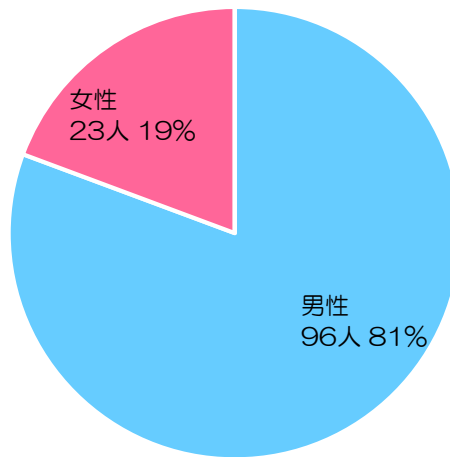
属性について

設問 1：性別	設問 2：年齢	設問 3：居住地
---------	---------	----------

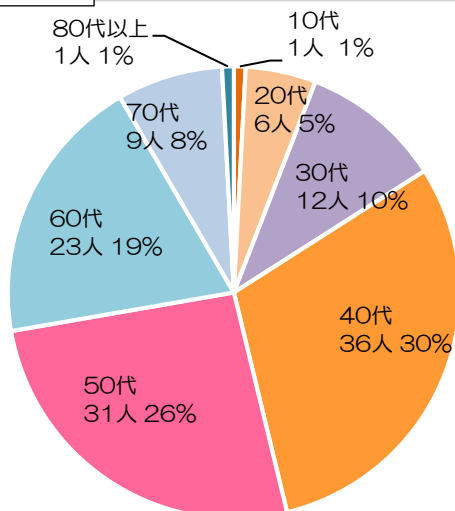
年齢については、40代が30%と最も多く、次いで50代26%、60代19%の順となっており、跡地利用計画に特に興味関心が高いと思われる地権者及び関係者の参加が多かったと考えられる。

また、居住地については、宜野湾市が36%と最も多く、次いで近隣の那覇市26%、浦添市12%の順となっている。オンライン同時配信を行ったことから、地元の方々をはじめ、広範囲に居住している県民へと情報発信ができたと考える。

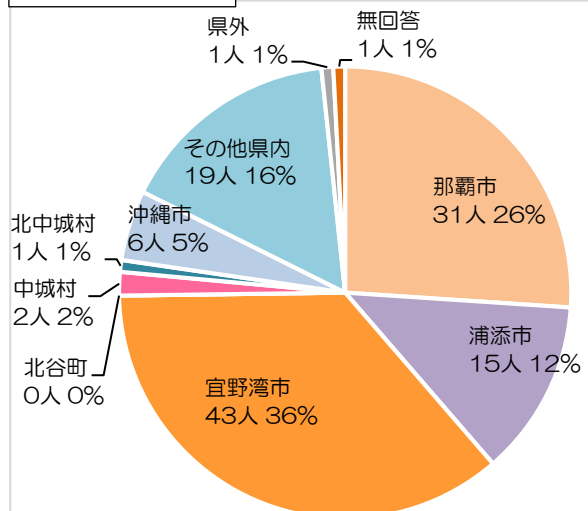
設問 1：性別



設問2：年齢



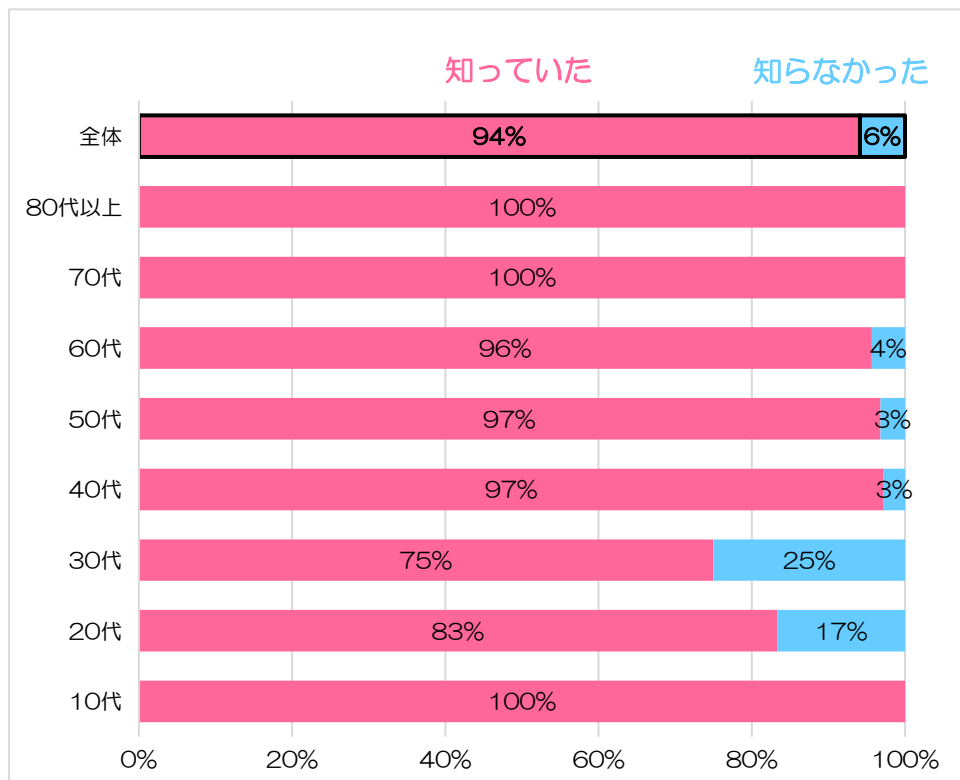
設問3：居住地



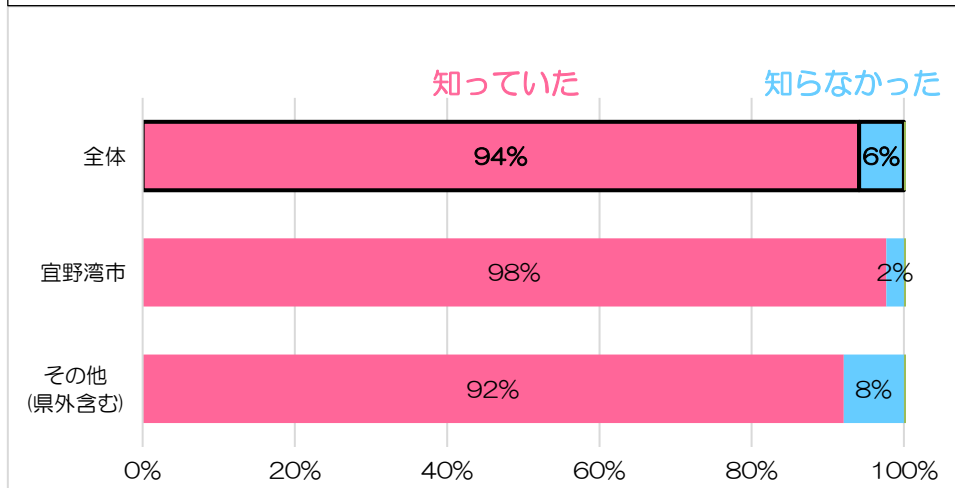
普天間飛行場に関する認知度について

設問 4：返還が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

普天間飛行場の「知っている」人が最も多く 94%、宜野湾市とその他市町村（県外含む）の比較でも、宜野湾市 98%、その他市町村（県外含む） 92%となっており、認知度に大きな違いは見られなかった。但し今回は過年度の巡回パネル展と異なり、興味・関心を持って参加された来場者へのアンケートであったことから、必然的に認知度が高くなった可能性があり、今後も引き続き、県内外に向けて広く周知を行っていく必要があると考えられる。



宜野湾市とその他市町村(県外含む)の比較

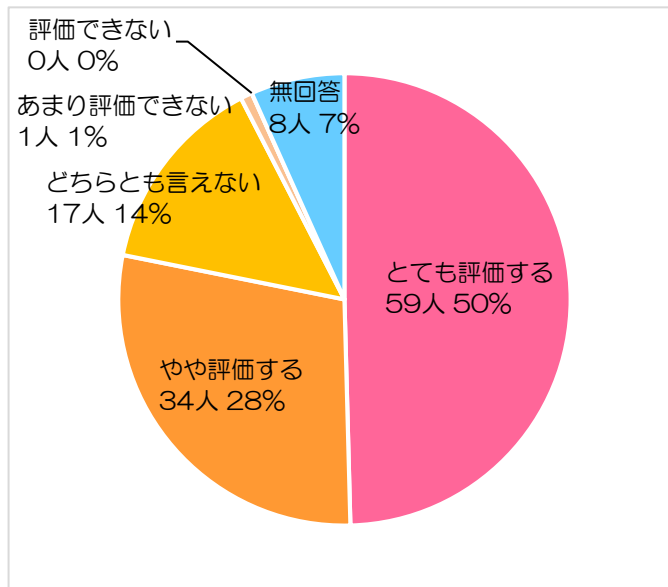


跡地利用に関する取組への評価について

設問 5：跡地利用に関する取組についてどう思いますか？

跡地利用に関する取組への評価としては、「とても評価する」が50%と最も多かった。「評価する（とても評価する・やや評価する）」と回答した人は78%、「評価しない（あまり評価できない・評価できない）」と回答した人は1%であった。

無回答を除くと、跡地利用への取組に「肯定的な評価（とても評価する・やや評価する）」をする人は84%となっている。



	回答数	割合
とても評価する	59	50%
やや評価する	34	29%
どちらとも言えない	17	14%
あまり評価できない	1	1%
評価できない	0	0%
無回答	8	7%
合計	119	100.0%

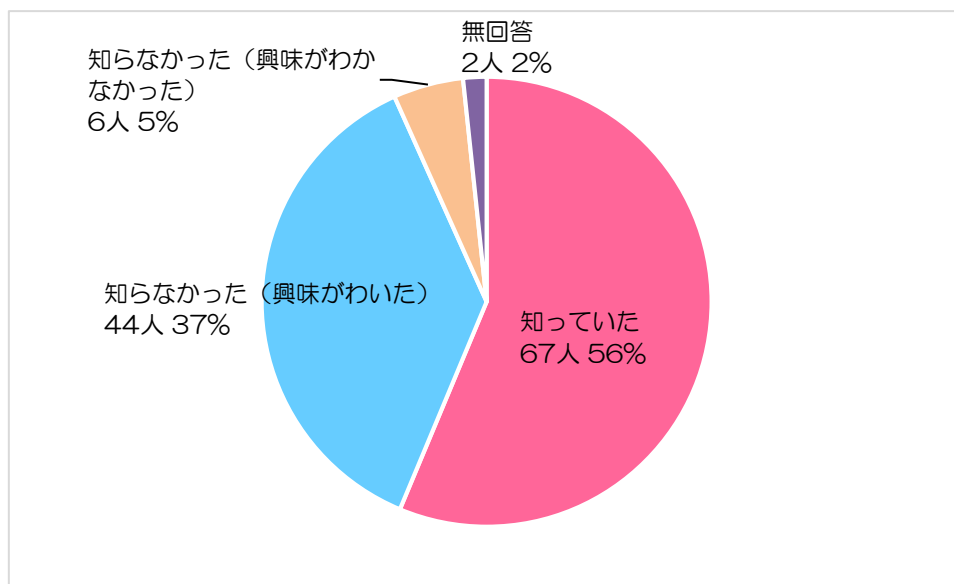
※無回答を除く

	回答数	割合
とても評価する	59	53%
やや評価する	34	31%
どちらとも言えない	17	15%
あまり評価できない	1	1%
評価できない	0	0%
合計	111	100.0%

HP「普天間未来予想図」の認知度について

設問 6：普天間飛行場の跡地利用に関する情報を発信している HP があることを知っていましたか？

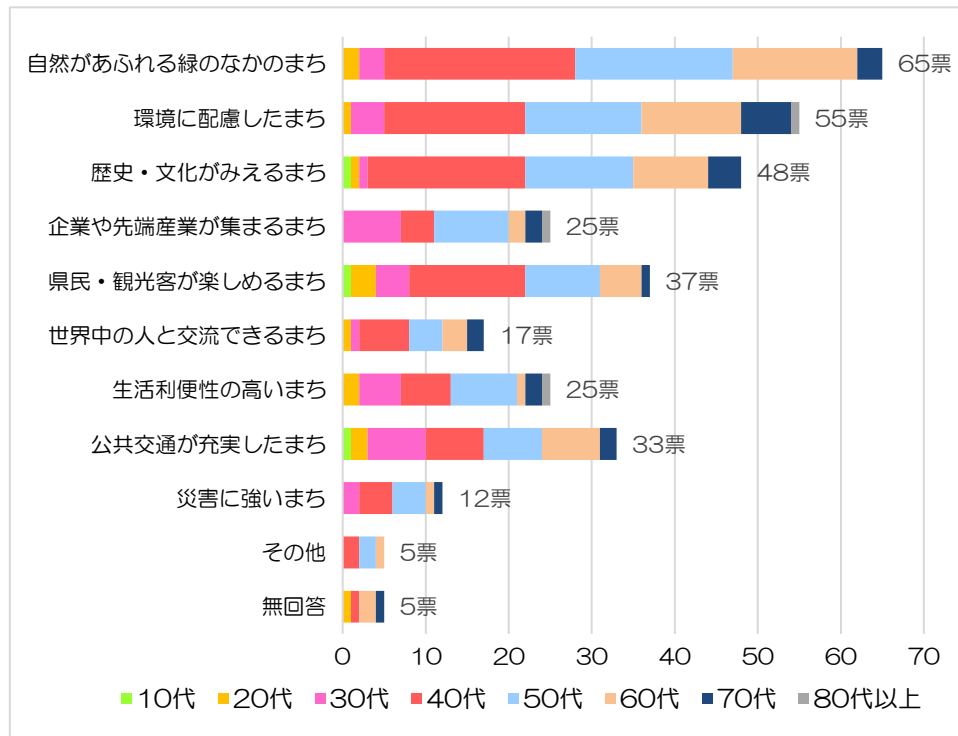
ホームページの存在を「知っていた人」は56%、知らなかったと回答している人のうち、「興味がわいた」と回答している人が37%であることから、今後、HPの存在を広く発信することで、HPの閲覧者増が期待できると考える。



期待する跡地のまち像について

設問 7：跡地がどんなまちになったらよいと思いますか？（3 つまで選択）

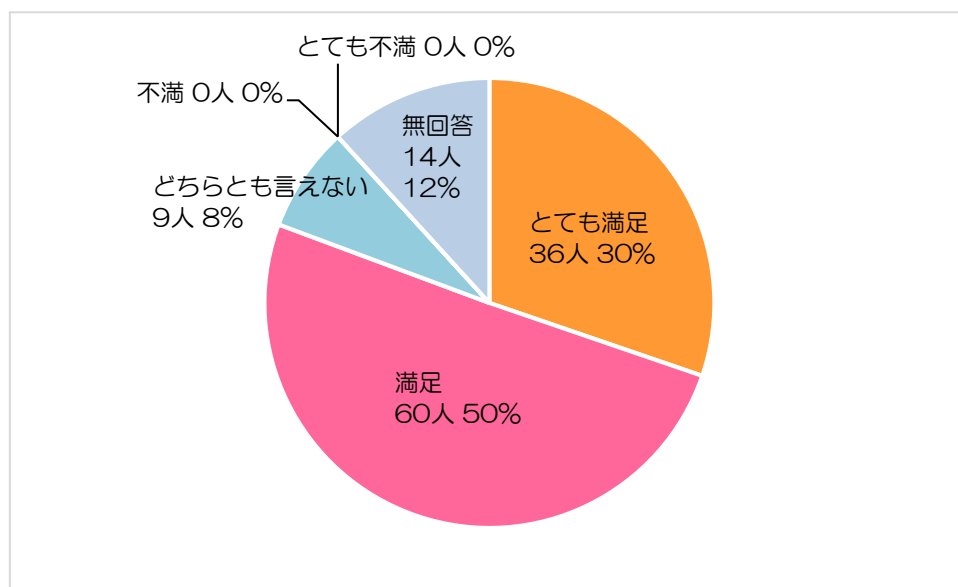
「自然があふれる緑のなかのまち」が 65 票と最も多く、次いで「環境に配慮したまち」55 票、「歴史・文化がみえるまち」48 票となっており、自然環境、跡地の歴史・文化を大事にしたまちづくりを求める回答者が多かった。



県民フォーラム（パネル展含む）の感想について

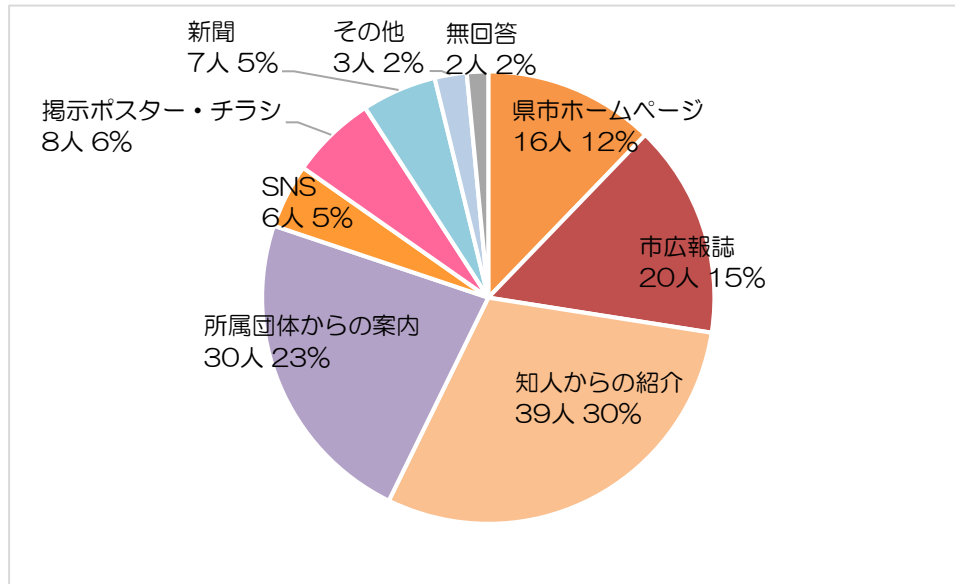
設問 8：フォーラム全体の満足度についてお聞かせください。

フォーラムの感想については、「満足」が 50%と最も多く、「満足（とても満足・満足）」と回答した人は全体の 80%を占めていた。



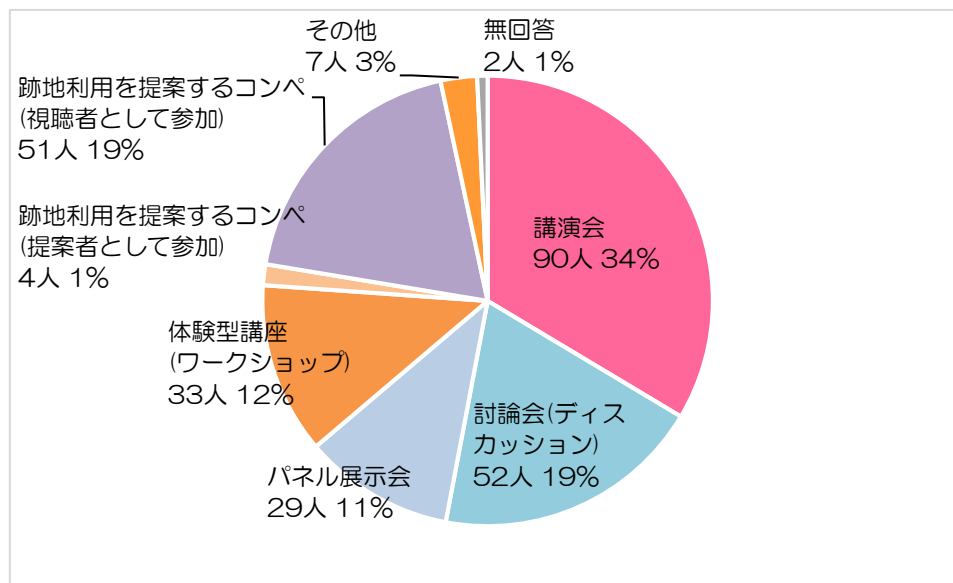
設問9：フォーラム参加のきっかけは何ですか？

フォーラム参加のきっかけについては、「知人からの紹介」が30%と最も高く、次いで「所属団体からの案内」23%、「市広報誌」15%となっており、掲示ポスター・チラシによる広報活動と共に、今後も積極的に関係者による周知活動が重要であると思われる。



設問10：今後、どのような情報発信イベントがあれば参加したいと思いますか？ (3つまで選択)

今後求める情報発信イベントについては、「講演会」34%が最も高く、次いで「討論会（ディスカッション）」19%、「跡地利用を提案するコンペ（視聴者として参加）」19%、となり、“見る”ではなく“聞く”側として参加を希望する回答者が多かった。



設問 11：その他ご意見・ご感想

■跡地利用の方向性について

- ・「改正地球温暖化対策推進法」のモデル地域に指定してもらいたい。
- ・おもろまちで一番よいところは、中央の公園だと思う。商業地域だけが良いのではない。普天間基地返還後に商業施設をつくるのではなく、普天間に来て良かった、もう一度行きたいと思う町にしてほしい。まだ先は見えないが楽しみです。その土地の力、大事にしたいですね。「今生きている私達の責任」いい話です。
- ・涌井先生の普天間における開発において、「埋めつくさない開発」の発想は大変すばらしいと思いました。また、未来への開発余地を残すということも感銘を受けました。
- ・これまで返還された基地の跡地がどうなっているのか考えると、確かに商業中心もしくは観光中心だった気がしました。普天間についてはどうなっていくか興味がもてました。本日はありがとうございました。
- ・第1部の涌井史郎氏の基調講演は経済発展や一極集中に偏った日本の構造が、本来沖縄らしい文化を持つ本県にも侵入し、独創性が失われてしまっていると指摘して頂いた。普天間基地のまちづくりは沖縄（琉球）の本質を再構築できるまちづくりにすべきだと強く感じた。第2部のパネルディスカッションも、3人のパネリスト及びコーディネーターも大変素晴らしく、各々の得意分野に根差した意見、知見を持ち発信して頂いた。日本及び世界の観光地等が様々な魅力を競っているが、これからは地力を増す努力をすべきという涌井氏の提言は大変参考になった。
- ・広大な基地のある沖縄にとって、返還地の跡地利用計画もとても重要だが、スプロールした既存市街の将来像をしっかりとおさえないといけない。なぜなら、人口が減る時代になり、一部の人はよりよくなった基地跡地に移動するだろうだろうが、既存市街が虫くい状態となりスラム化する危険性がある。既存市街地をどうするかという問題点をしっかりと考えないといけない。（これまでの基地跡地利用は、戦後沖縄の街、都市のスプロールでしかなかったのではないか。しっかりした反省の上で今後の基地跡地を考えるのが重要である）
- ・内地の企業を参入可とする場合、利用し尽くす。緑を大きく取り、環境を重視する。空手道場（首里手、泊手等の各流派）を集積した地区を造る。（沖縄空手のコア）ショッピングモールはもう止めよう。
- ・涌井先生の講演の中やパネルディスカッションでの真喜屋先生のお話にも「沖縄らしさ」という事がありました。近年沖縄の風景はどこも同じ様、本土の様、とまさに感じていました。是非、普天間飛行場跡地では、近年のまちづくりと異なる「沖縄らしさ」を感じる街づくりを期待しています。
- ・環境に配慮した跡地利用とあわせて、国を連携して、国連機関や世界的な規模のNGO等の支部を誘致するなど、平和・国際交流のシンボルとしての跡地利用とまちづくりもご検討いただきたいと考えます。
- ・涌井先生、真喜屋先生がおっしゃってるような、住民本意、沖縄の自然、風土、歴史を、今一度重視して、沖縄の住民の幸福の上に、世界の最先端と繋がる地域とすることが大切であるとわかりました。

■地下空洞の活用

- ・まちづくりに地下利用も検討した方が有効活用や安全対策し、隣国からのミサイル被害対策（公園にシェルター設置等）につながるのでは？

■歴史特性を活かしたまちづくり

- ・沖縄中南部都市圏に不足する一団の都市公園、緑地、戦前の田園風景等の整備をしっかりと行って欲しい。
- ・琉球王国時代には、北部方面への街道には、松並木があり道しるべとなっていた。「丘の1本松」にも代表される風景の整備を期待する。
- ・街を散策して楽しくなるような歴史街道やウタキ等のストーリーを感じながら、歩ける街になってほしい。この先の社会の変化に応じて柔軟に計画を見直しつつ対応して行ってほしい。
- ・環境や文化財に関する調査や計画にも取組まれていると思います。保全、活用した街づくりを期待しています。
- ・涌井先生がおっしゃった、沖縄の各地域の固有な歴史と文化（アイデンティティ）をその地域が大事にするとともに、コムーネとしてそれぞれが切磋琢磨し共同体として連携発展していくべきという話に感銘を受けました。

■みどりの中のまちづくり

- ・返還された時期には、世の中の情勢が変わっても、環境共生はずっと昔からあるので（重要度は高いまま）、遠い未来でもそのまま利用できると考える。期間と返還の目途が現実的で話がおもしろかった。（遠い未来だが、どう計画、ひきついでいくか考えがあって良かった）
- ・みどりの中のまちづくりを実現できるように、計画をしっかりと立てていただきたい。
- ・跡地利用は利益追求ありきで考えるべきではないのだろうか。例えばイオンモールやららぼ一などができる事は沖縄で長い苦しみの末に現れてはいけないと思う。又、基地が返還されたらみどりがどんどん減っていく。本当は跡地利用の方向性は、答えが出ているはずだ。
- ・これまでの町づくり（基地跡地利用）は経済的発展に視点を当てた取組だった様に思う。（それはそれで成果として認められるが）ただこれからの町づくりは、地球環境を考えていくSDGsの視点を大事にしつつ、歴史・文化の共有も含めて進めていかないといけないということを再確認できた講演でした。
- ・涌井先生の講演は、これまでのまちづくりの概念を大きく変える重要な示唆をあたえるものでした。コンクリートで囲まれた都市景観が緑で覆われるとの“夢”のようなことが、実現できると、沖縄の大きな財産になると思いました。普天間基地はある意味で無から有を生み出すことですから、先生の考え方が大いに参考になると思いました。これからの社会の大きな課題は、エネルギーと食糧だと思います。コンパクトシティはその課題を解決する一助になるのではないかと思います。ちなみに、福原さんの家庭菜園も緑化という考え方には同意します。昔から沖縄では屋敷内菜園がありました。我が家でもオクラ、パパイヤ、バナナは食卓の人気ものです。
- ・跡地利用で新都心や美浜、ライカムとはちがうまちづくりが必要。（消費中心の同じようなまちづくりの商業地だけのまちより、緑の中、公園の中に住んでいるようなまちづくりはどうでしょう）シンガポールはガーデンシティ、マレーシアはフォレストシティのような景観があり、普天間は沖縄らしい景観、風景があるまちづくりをしてほしい。
- ・ハコモノに頼ると、50年でまちづくりを考えなくてはならないため、自然を中心に100年続くまちづくりを考えてほしい。
- ・涌井先生の講演から、DXが進む社会の中で街の中の自然がとても大切になること、環境

という視点がとても大事だと思った。跡地は民有地が多いという特性はあるが、先行取得制度をうまく活用して、自然や公園を多く配置してほしい。それが防災拠点にもなるし、多機能公園として配置してほしい。

- ・単なる緑地や公園だけでなく、市民農園を身近なみどりとして普及させていくことはとても良い話だと思います。与えられる緑だけではなく、市民ひとりひとりがみどりを増やす担い手に、自然となるような取組や支援が必要だと思いました。

■公共交通

- ・返還が遅いからこそ鉄軌道が取りこめる可能性もある。
- ・持続可能な環境に優れた街にしたいという事が理解できた。西普天間のような、県内唯一のコンセプト「医療拠点」という強いイメージではなく、よくあるような「環境共生」でインパクトが弱い感じがした。西普日間との連携、交通、道路網の連絡もしくは、両区間の間を区画整理して、一体的に整備して「つなぐ」形で街づくりができるのでは。
- ・大型開発と公共交通の必要性がある中、鉄道はいつ出来るのか、少なくともうるま市から名護間の利用客には、中南部に比べて少なすぎると思う。また、普日間跡地開発と鉄道開発の整合を図るのはハードルが高すぎる。復帰前から鉄道を走らせるとして、国鉄を意識して県民の盛り上がりがでてきたと思う。しかし、S62年に国鉄が民営化され、経営主体が決まる訳でもなく、50年経って税金を使って同じことを繰り返しているが、県の発表では、鉄道の必要性があるとのことであり、フィーダーについても市町村自治体においてそれぞれが会社を作り経営するのは難しいと思う。これから先30年、50年必要の議論で終わるのか、投資効果は今の現状では期待できない。
- ・普日間へ公共交通としてのモノレールを浦添より延伸してほしい。

■情報発信について

- ・世代、立場が異なるパネリストの話が聞けてよかった。普天間のことを思う人がもっと増え、みんなで語れる場をもっと作っていいですね。
- ・宜野湾市民として、色々な計画がされていると知り、とても楽しく過ごせました。福原さんみたいに若者がしっかり考えないといけなと感じました。
- ・若い人が参加していることが大変いいことだと思います。本日は、ありがとうございました。
- ・とても楽しかったです。こういうフォーラムはもっと地域住民を交えてやってほしいと思いました。
- ・基調講演の涌井史郎氏の話が、興味深く良かった。普日間飛行場跡地利用県民フォーラム開催をもっと増やして頂きたい。
- ・本当に素晴らしいフォーラムでした。今後もぜひ続けていってほしいと思います。
- ・すごく楽しく跡地利用の計画を聞くことができました。文化を大切に、市民のために県民のためになる跡地利用が出来ればいいと思います。もっと若い人々の意見が聞けるといいなと思います。
- ・県民フォーラムと関連していただきありがとうございます。普日間飛行場跡地利用について、考える良い機会だと思います。お忙しいとは存じますが、定期的にこういった場を引き続き継続してほしいです。
- ・涌井さんの講演はとてもよかった。深めた考えをシリーズで拝聴したい。又、まちづくりに関して、戦後の70年の記憶を消すのではなく、どこかに建物を保存して、後世に伝

えるべきではないのだろうか。

- ・歴史・文化・自然は宝であるということをこれからの若者子ども達に伝え、皆が普天間の跡地を世界に誇れる町づくりができれば良いですね。時間はかかると思いますが、つないでいく！
- ・涌井さんの講演はとても内容のあるものだった。県内紙で連載コラムをして、県民にも大事な視点を気付かせた方がよい。
- ・今後私（一市民）も参加できる仕組みをつくっていただければいいと思った。地元で（夢を）話してみたい。
- ・涌井先生のまとめの提案文章が頂けたらと思う。
- ・涌井先生の基調講演、とても興味深いものでした。できればレジュメ等があればと思います。
- ・第1部の基地講演は、たいへん興味深い内容でしたが、沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用について具体的な内容がなかった。内容の5%が沖縄では今さらの内容ばかりでは。宜野湾並木街道ではなく普天間街道である。歴史としてしっかり伝えて欲しい。第2部は、本音も出て良かったと思う。普天間飛行場の内に入り、歩いてみると広さがわかります。ディズニーランドの何倍と言われてもわからないですよ。ぜひ飛行場内に入って下さい。
- ・久しぶりの県民フォーラムで、過去何回か参加させて頂いているが、毎回思うことは、事前に1、2週間前に関係資料を配布してもらえれば、開催日まで内容等をチェックし、知識等の再確認出来、有意義な会議になると考えます。次回開催は是非とも検討して頂きたいと思います。
- ・討論会に外国人も参加していただくなど。（国際交流・平和の視点）
- ・パネル展のVRコーナーがよかった。子どもが興味をもっていた。

■跡地利用計画のスケジュールについて

- ・フォーラムの内容は素晴らしかった。ただし、今後のタイムスパンが分かりづらく、いつ整備の見通しが立つのかが不明瞭であるのが残念である。整備を進める中で、いつまで跡地利用、計画を見直していくのか、内容と共に返還後の整備のロードマップも示していくべきである。
- ・環境に配慮した街づくりがテーマの1つになっていたと思う。しかし、普天間飛行場のPFAS汚染に全く触れられていないことが大変気になる。水と緑の公園、オーガニック農業を構想しても、土壌、水自体がPFASで汚染されていたのでは、自由に構想を描くことが果たしてできるのか。返還自体がまだ見通されていない今の時期に、しっかり土壌調査をするべきではないか。
- ・「返還合意」があるので、いつの日か還ってくる時のための跡地利用計画を考えている、というのは良く理解できました。「理」はあるのだと。でも・・・やはり「移転先」のコトが話に出てこないの、どうにもフクザツです。涌井先生のお話はナナメ上から、沖縄、琉球の核心に刺さっている大事な話で、すごかったです。感動しました。

■大規模公園の整備について

- ・普天間基地の辺野古への移設をすすめ、早急にこの跡地利用計画を実現してほしいです。特に大規模都市公園の整備には大変期待しております。

5) 行程計画への反映事項

県民フォーラム意見	行程計画該当箇所
●みどりの中のまちづくりに対する要望 - みどりの中のまちづくりを実現できるように、計画をしっかりと立てていただきたい - 跡地利用で新都心や美浜、ライカムとはちがうまちづくりが必要（消費中心の同じようなまちづくりの商業地だけのまちより、緑の中、公園の中に住んでいるようなまちづくりはどうでしょう） - コンクリートで囲まれた都市景観が緑で覆われるとの“夢”のようなことが、実現できると、沖縄の大きな財産になると思う	●大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出 ボーダレスな緑の取組イメージの検討
●沖縄振興に寄与する土地利用・機能導入の提案 - 環境に配慮した跡地利用とあわせて、国と連携して、国連機関や世界的な規模のNGO等の支部を誘致するなど、平和・国際交流のシンボルとしての跡地利用とまちづくりもご検討いただきたい - 住民本意、沖縄の自然、風土、歴史を、今一度重視して、沖縄の住民の幸福の上に、世界の最先端と繋がる地域とすることが大切	●大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出 - 振興拠点のあり方、戦略的な導入機能の検討 - 国家プロジェクトとしてふさわしい取組の検討
●大規模な公園・緑地の整備に対する要望 - 大規模都市公園の整備には大変期待している - 沖縄中南部都市圏に不足する一団の都市公園、緑地の整備をしっかりと行ってほしい - 跡地は民有地が多いという特性はあるが、先行取得制度をうまく活用して、自然や公園を多く配置してほしい	●大規模公園エリアを核とした沖縄振興拠点の創出 大規模公園エリアの整備のあり方検討
●公共交通のあり方及び周辺市街地との連携のあり方 - 返還が遅いからこそ鉄軌道が取りこめる可能性もある - 西普天間との連携、交通、道路網の連絡もしくは、両区間の間を区画整理して、一体的に整備して「つなぐ」形で街づくりがで	●周辺インフラや市街地との連携 新たな交通計画を踏まえた跡地内交通計画の検討

県民フォーラム意見	行程計画該当箇所
きるのでは ・普天間へ公共交通としてのモノレールを浦添より延伸してほしい	
●歴史文化資源を活用したまちづくり・風景づくりの考え方 ・これからの町づくりは、地球環境を考えていくSDGsの視点を大事にしつつ、歴史・文化の共有も含めて進めていかないといけない ・戦前の田園風景等の整備をしっかりと行ってほしい ・歴史街道やウタキ等のストーリーを感じながら、歩ける街になってほしい ・環境や文化財に関する調査や計画にも取組まれていると思います。保全、活用した街づくりを期待 ・普天間基地のまちづくりは沖縄（琉球）の本質を再構築できるまちづくりにすべきだと強く感じた	●歴史的資源・景観資源の継承 ・歴史文化資源の現状把握及び継承（保存・再生・活用）にかかる課題整理 ・活用方策の検討（保全したい箇所の計画への反映を含む）
●並松街道の整備について ・琉球王国時代には、北部方面への街道には、松並木があり道しるべとなっていた。「丘の1本松」にも代表される風景の整備を期待	●歴史的資源・景観資源の継承 ・整備イメージ及び整備に向けた取組の検討
●地域資源の継承・人材育成について ・歴史・文化・自然は宝であるということをこれからの若者子ども達に伝え、皆が普天間の跡地を世界に誇れる町づくりができれば良い	●国内外に向けた継続的な情報発信 ・教育と連携した情報 発信方策の検討
●情報発信・合意形成の手法について ・今後私（一市民）も参加できる仕組みをつくっていただければいいと思った。地元で（夢を）話してみたい ・こういうフォーラムはもっと地域住民を交えてやってほしい ・定期的にこういった場を引き続き継続してほしい ・討論会に外国人も参加していただくなど（国際交流・平和の視点）	●国内外に向けた継続的な情報発信 ・継続的な情報発信（必要に応じて適宜）

あなたの声が沖縄の未来をつくります。ご意見をください。／

普天間 飛行場跡地 未来予想図2.0

あなたについて教えてください。

Q1. 性別

- ① 男性 ② 女性 ③ その他

Q2. 年齢

- ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代
⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上

Q3. 居住地

- ① 那覇市 ② 浦添市 ③ 宜野湾市 ④ 北谷町 ⑤ 中城村
⑥ 北中城村 ⑦ 沖縄市 ⑧ その他県内 () ⑨ 県外

普天間飛行場跡地についてのご意見をお聞かせください。

Q4. 返還が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった

Q5. 跡地利用に関する取組についてどう思いますか？

- ① とても評価する ② やや評価する ③ どちらとも言えない
④ あまり評価できない ⑤ 評価できない

Q6. 普天間飛行場の跡地利用計画に関する情報を発信しているHP「普天間未来予想図」がありましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった (興味があった)
③ 知らなかった (興味がなかった)

◎アンケートのご協力ありがとうございました。ご記入が完了しました。ご記入が完了した方は、出入口に設置しているアンケート回収箱に投函してください。

Q7. 普天間飛行場跡地がどんなまちなちになったらよいと思いますか？ [3つまで選択]

- ① 自然があふれる緑のなかのまち ② 環境に配慮したまち
③ 歴史・文化がみえるまち ④ 企業や先端産業が集まるまち
⑤ 県民・観光客が楽しめるまち ⑥ 世界中の人と交流できるまち
⑦ 生活利便性の高いまち ⑧ 公共交通が充実したまち
⑨ 災害に強いまち ⑩ その他 ()

今回の県民フォーラム（パネル展含む）のご意見をお聞かせください。

Q8. フォーラム全体の満足度についてお聞かせください。

- ① とても満足 ② 満足 ③ どちらとも言えない
④ 不満 ⑤ とても不満

Q9. フォーラム参加のきっかけは何ですか？

- ① 県市ホームページ ② 市広報紙 ③ 知人からの紹介
④ 所属団体からの案内 ⑤ SNS ⑥ 掲示ポスター・チラシ
⑦ 新聞 ⑧ その他 ()

Q10. 今後、どのような情報発信イベントがあれば参加したいと思いますか？ [3つまで選択]

- ① 講演会 ② 討論会（ディスカッション）
③ パネル展示会 ④ 体験型講座（ワークショップ）
⑤ 跡地利用を提案するコンペ（提案者として参加）
⑥ 跡地利用を提案するコンペ（視聴者として参加）
⑦ その他 ()

他にもご意見や感想等ありましたら裏面にご記入をお願いします。

図Ⅳ-36 アンケート用紙

6) パネル展の結果

パネルは今年度制作（第Ⅳ章 1）した大人向けパネルと子ども向けパネルの2種類を展示した。来場者には事前に配布したシールを関心があるパネル（1パネル/シール1枚）に貼って頂き、参加者が特に興味・関心を示すパネルを整理した。

※興味・関心を示すパネルの整理は大人向けパネルのみ

①展示パネル一覧

表Ⅳ-4 大人向けパネル

No.	タイトル	票数
1	普天間飛行場の跡地利用計画について	1
2	跡地利用の方向性	6
3	自然環境資源（現状）	15
4	歴史文化資源（マップ・重要遺跡）	22
5	歴史文化資源（戦前の集落）	14
6	空間構成の方針	5
7	配置方針図	10
8	ゾーンイメージ	19
9	みどりの中のまちで育む沖縄の新しいライフスタイル	23
10	基地の跡地利用の効果	17

表Ⅳ-5 子ども向けパネル

No.	タイトル
1	普天間飛行場のこと
2	飛行場はどんな場所？（地下水）
3	飛行場はどんな場所？（地形・自然）
4	飛行場はどんな場所？（歴史）
5	飛行場はどんな場所？（集落）
6	未来のまちの計画図
7	未来のまちのイメージ（都市拠点ゾーン）
8	未来のまちのイメージ（振興拠点ゾーン）
9	未来のまちのイメージ（居住ゾーン）
10	基地がまちになった例

(3) まとめと今後の課題

1) 来場者の反応

- ・今回の県民フォーラムでは、著名人である東京都市大学、特別教授の涌井史郎氏にご登壇頂いたことで、多くの来場者が興味・関心を示し来場した。
- ・オンライン同時配信や YouTube を活用したアーカイブ配信（期間限定）を行ったことから、これまで以上に広く情報発信ができたと考えられる。
- ・パネル展会場では、パネル展示のみではなく、昔の集落がわかる模型や未来のまちを体験できるコーナーを設けたことで、興味関心を示し立ち止まる来場者が多く見られた。

2) 意見聴取について

- ・アンケートは紙媒体（現地参加者）と Web アンケート（オンライン参加者）を併用し、参加者全員に対して行った。
- ・過年度までの不特定多数の県民・市民を対象としたイベントと異なり、興味・関心を持ち来場された方に対するアンケート調査であったことから、多くの来場者から意見を聴取することができた。

3) 内容について

- ・涌井先生の基調講演を受けて、参加者からは沖縄らしさを感じるまちづくりや商業施設頼みでない開発への期待を望む意見が見られた。
- ・みどりの中のまちづくりに対する期待も多く、「自然があふれる緑の中のまち」や「環境に配慮したまち」等、自然環境を大事にしたまちづくりを求める意見が多く見られた。
- ・パネル展会場においては、原風景模型や地形模型等が来場者の目を引くアイテムになったと考えられる。バーチャル普天間未来シティの体験コーナーでは、子ども連れの来場者が特に興味・関心を示しており、跡地の成り立ちや未来のまちのイメージをより明確に伝えることができたと考えられる。

4) 今後の課題

情報発信イベントは、跡地利用計画の認知度向上や跡地利用に関する機運醸成及び意見聴取を目的としており、アンケート結果においても跡地利用に関する取組への肯定的な評価が多かった（約 8 割）ことから、今後も引き続き、県内外に向けて広く周知を図っていく必要があると考えられる。

今後参加したい情報発信イベントとしては、講演会、討論会（ディスカッション）、跡地利用を提案するコンペ（視聴者）が上位に挙がっていたため、今回と同様の情報発信イベントを継続して実施する他、一方通行の発信ではなく、参加者を巻き込んでいくことで、参加者自身が跡地利用を自分事として考えるきっかけとなるようなイベントを検討する必要がある。

3. ホームページの更新

本節では、今年度実施したホームページの更新内容について整理し、今後の展開について述べる。

(1) コンテンツの更新

計画内容の更新、イベントの報告など新たなコンテンツを順次格納し、サイトのアップデートを行い、地権者、県民・市民に情報発信の充実を図った。

更新項目は、以下の通りである。

【更新項目】

- ・「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」/PVの反映
- ・イベント開催報告（普天間飛行場跡地利用県民フォーラム）
- ・海外先進事例調査の結果報告

1) 「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」/PVの反映

沖縄県及び宜野湾市のホームページにおいて、今年度策定した「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の内容を反映した。

① トピックスの修正



- ・ 文言の修正
「全体計画の中間取りまとめ」→
「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」

- ・ 文言の修正
「全体計画の中間取りまとめ」→
「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」
- ・ リンク先の変更

1996年「沖縄に関する特別委員会」SACOの最終報告で
普天間飛行場の全面返還が合意されました。
「普天間飛行場の跡地」利用にむけて…沖縄県と宜野湾市は共同で取り組みをすすめ、
これまで学識経験者や地権者の皆さん、県民・市民の皆さん、関係機関等と一緒に
どうしていくかを考えてきました。
その調査結果をまとめた最新版が、「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」(2022年7月)です。
このサイトでは、「普天間飛行場の跡地」利用にむけた考えをわかりやすくイメージでご紹介します。

・文言の修正
全体計画の中間取りまとめ(第2回)に合わせて文言を修正

計画のポイント「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」から



・文言及びレイアウトの修正
全体計画の中間取りまとめ(第2回)に合わせて文言及びレイアウトを修正

未来のまちイメージ VR アニメーション

返還後の跡地利用を早期に実現するためには、返還前の早い段階から跡地利用計画を準備しておく必要があります。そこで、文化財や自然環境の文獻調査・現況調査、有識者からのご意見も伺いながら、跡地利用計画の検討を進め、まちのイメージをCGアニメーションで描いてみました。



②駐留軍用地が返還されるページ

「駐留軍用地」が返還される

沖縄中南部では、返還跡地を利用した“まちづくり”が始まっています。



・文言及びレイアウトの修正
・写真の差替え
・返還済の駐留軍用地を反映
・“沖縄県の跡地利用について”のリンクを記載

(沖縄県の跡地利用について)
詳しくは下記URLよりご覧ください。
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/tochitai/atochi/kitiatotiriyou/kitiatotiriyounituite.html>

つづき [みどりの中のまちをつくる](#) をみる

③みどりの中のまちをつくるページ

「みどりの中のまち」をつくる

普天間飛行場は自然と歴史・文化の資源が残っているところだから…

跡地の将来像

世界に誇れる優れた環境の創造～みどり（歴史・みどり・地形・水）の中のまちづくり～

県内有数の自然と歴史・文化の蓄積を継承・発展させ、

都市機能を融合させた豊かな地域資源を活かしつつ自律的に発展していくまちづくり

計画はこの層のように考えられています！



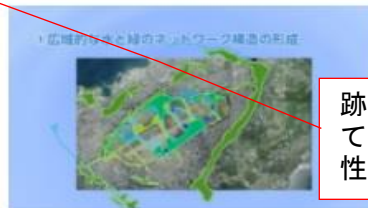
・文言及びレイアウトの修正
全体計画の中間取りまとめ（第2回）に合わせて文言及びレイアウトを修正

跡地の将来像及び跡地利用計画の考え方を分かりやすく掲載

【時代が変わっても、揺らぐことなく、大切にしたい3つのまちづくりの方向性】

① 広域的な水と緑のネットワーク構造の形成

普天間飛行場に残る水と緑。新たに生み出す緑。周辺の水とを一体化した、水と緑のネットワークを創ります。



跡地利用に取組中、時間が経過しても変わらないまちづくりの方向性を紹介

② 沖縄振興の舞台となるみどりの中のまちづくり

水と緑のネットワークを活かし、都市機能を融合させることで、この地の価値を高め、魅力的な環境のみどりの中のまちをつくります。



③ 環境の豊かさが持続するまちづくり

水と緑の環境の豊かさを持続させるために、人材やその時点の最新技術を活かしていきます。



つづき 人々が集まるまちができる をみる

④人々が集まるまちができるページ

人々が集まるまちができる

こんなまちにしようと考えています！

配置方針図

この配置はひとつの例です。

「普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた中間取りまとめ（第2回）から」



大規模公園エリア	振興拠点ゾーン (沖縄振興コア)	振興拠点ゾーン	都市拠点ゾーン
居住ゾーン (田舎風ゾーン)	公園・緑地	周辺市街地の公園・緑地等	湧水
並街街道（往時）	シンボル空間	高規格幹線道路、地域高規格道路	主要幹線道路 (計画構想区間)
都市幹線道路 (施設区間/計画構想区間)	地区幹線道路 (施設区間/計画構想区間)	公共交通輸（構想）	

・文言及びレイアウトの修正
全体計画の中間取りまとめ（第2回）に合わせて文言及びレイアウトを修正



振興拠点ゾーンのイメージを紹介
未来のまちのイメージをスケッチ
で分かりやすく掲載

都市拠点ゾーンのイメージ



都市拠点ゾーンのイメージを紹介
未来のまちのイメージをスケッチ
で分かりやすく掲載

居住ゾーンのイメージ



居住ゾーンのイメージを紹介
未来のまちのイメージをスケッチ
で分かりやすく掲載

つづき [未来のまち
イメージ VR](#) をみる

2) イベント開催報告

11月に開催した「普天間飛行場跡地利用県民フォーラム」の開催結果を会場風景、来場者属性、アンケート集計結果を抜粋して、来場された方や初めて見る方にも概略がつかめるようにまとめた。

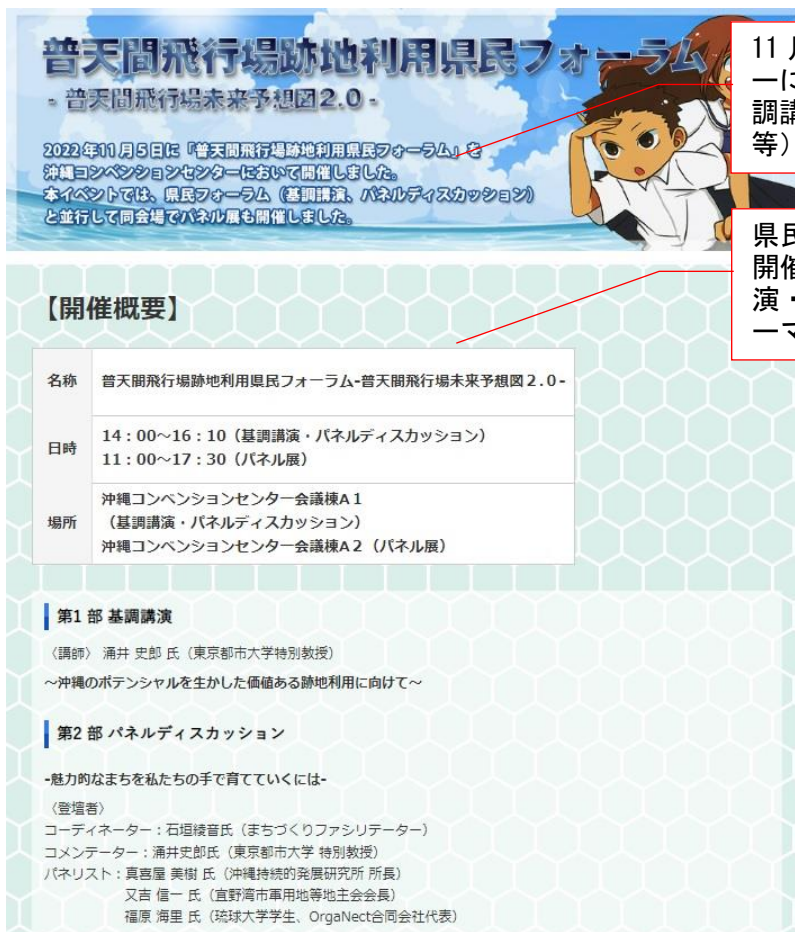
① トピックスの修正



・文言の修正
「パネル展」→「普天間飛行場跡地利用県民フォーラム - 普天間飛行場未来予想図 2.0 -」

・文言の修正
「パネル展」→「普天間飛行場跡地利用県民フォーラム開催報告」

② イベント開催報告ページ



11月に沖縄コンベンションセンターにおいて、県民フォーラム（基調講演・パネルディスカッション等）を開催したことを紹介

県民フォーラムの概要を紹介
開催日時・場所とともに、基調講演・パネルディスカッションのテーマ及び登壇者を紹介

【開催概要】

名称	普天間飛行場跡地利用県民フォーラム-普天間飛行場未来予想図 2.0 -
日時	14:00~16:10 (基調講演・パネルディスカッション) 11:00~17:30 (パネル展)
場所	沖縄コンベンションセンター会議棟A 1 (基調講演・パネルディスカッション) 沖縄コンベンションセンター会議棟A 2 (パネル展)

第1部 基調講演

〈講師〉 浦井 史郎 氏 (東京都市大学特別教授)
～沖縄のポテンシャルを生かした価値ある跡地利用に向けて～

第2部 パネルディスカッション

～魅力的なまちを私たちの手で育てていくには～
〈登壇者〉
コーディネーター：石垣綾音氏 (まちづくりファシリテーター)
コメンテーター：浦井史郎氏 (東京都市大学 特別教授)
パネリスト：真喜屋 美樹氏 (沖縄持続的発展研究所 所長)
又吉 信一氏 (宜野湾市軍用地等地主会会長)
福原 海里氏 (琉球大学学生、OrgaNect合同会社代表)

来場者数合計：189

会場参加：137人 オンライン参加：52

来場者数を紹介

県民フォーラム会場風景



会場の風景を写真で紹介

パネル展会場風景



展示会場でみなさんにご覧いただいたパネルは、
こちらでご覧いただけます。

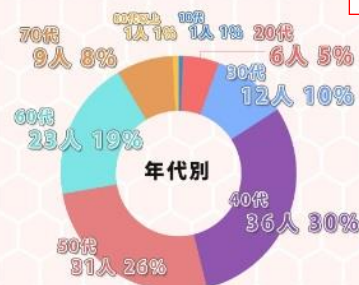
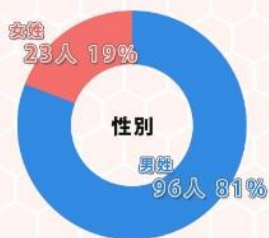
大人向け パネルを見る

子ども向け パネルを見る

・ パネルを紹介
会場で展示していたパネル（大人
向けパネル・子ども向けパネル）
を紹介

会場来場者189人
アンケートに回答してくれた人119人

来場者の属性を性別、年代別、住
まい別で紹介

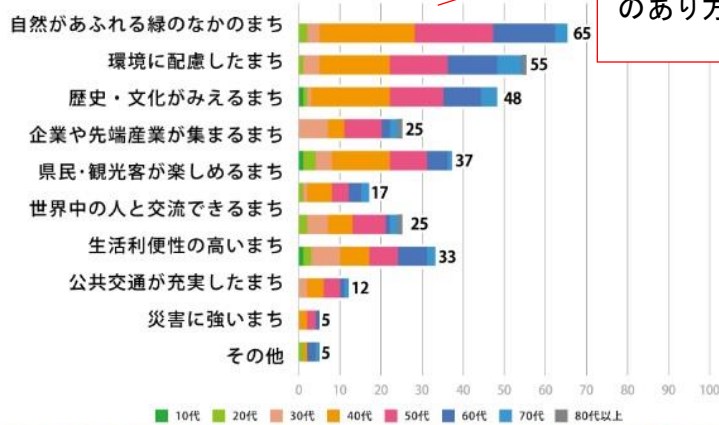


Q. 普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？



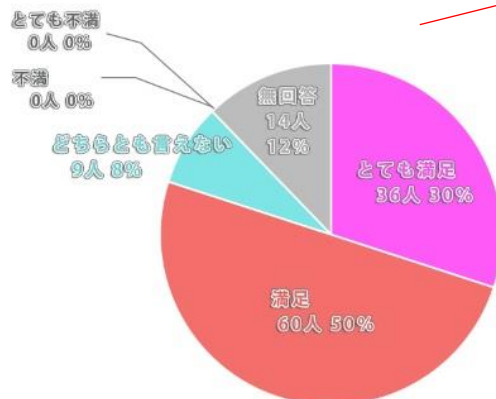
会場内及びオンライン参加者に実施したアンケート調査（跡地利用に向けた取組の認知）の結果を紹介

Q. 普天間飛行場跡地がどんなまちになったらよいと思いますか？

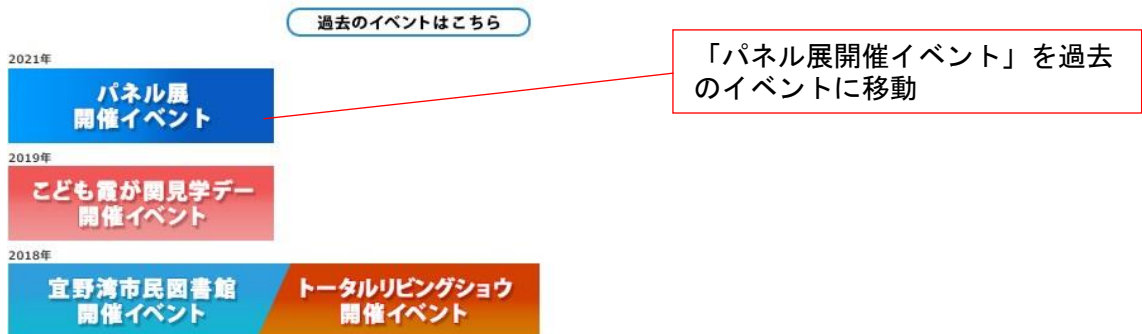


会場内及びオンライン参加者に実施したアンケート調査（跡地利用のあり方に関して）の結果を紹介

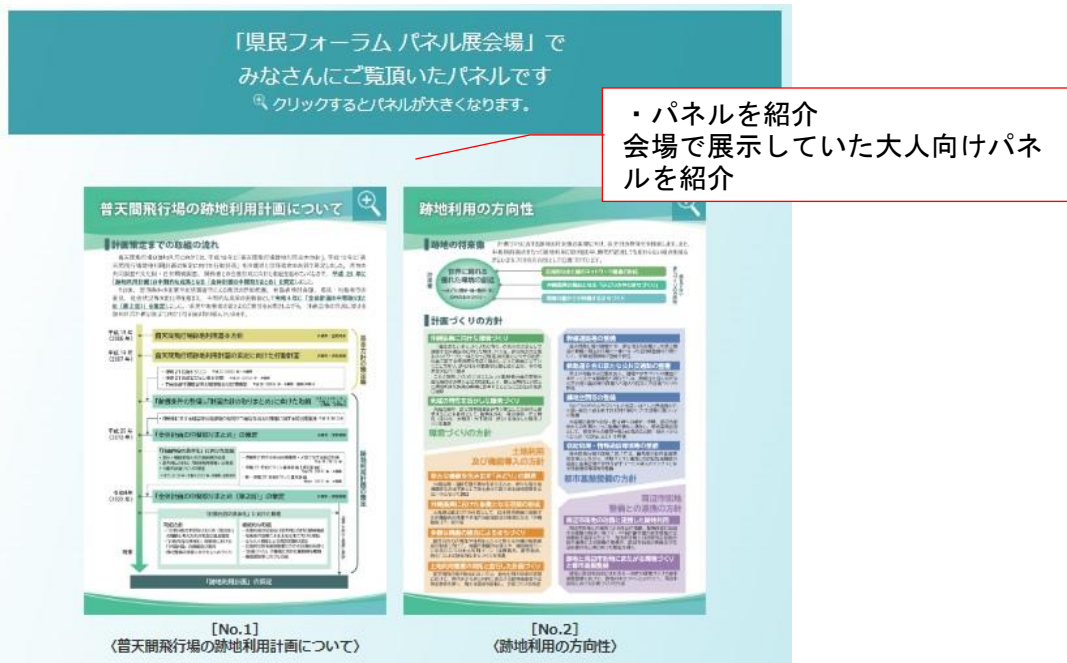
Q. フォーラム全体の満足度についてお聞かせください



会場内及びオンライン参加者に実施したアンケート調査（イベントの満足度）の結果を紹介



③パネル紹介ページ（大人向けパネル）





【No.3】
〈自然環境資源（現状）〉



【No.4】
〈歴史文化資源（マップ・重要遺跡）〉



【No.5】
〈歴史文化資源（戦前の集落）〉



【No.6】
〈空間構成の方針〉



【No.7】
〈配置方針図〉



【No.8】
〈ゾーンイメージ〉



④ パネル紹介ページ（子ども向けパネル）





【No.5】
〈飛行場はどんな場所? (集落)〉



【No.6】
〈未来のまちの計画図〉



【No.7】
〈未来のまちのイメージ (都市拠点ゾーン)〉



【No.8】
〈未来のまちのイメージ (振興拠点ゾーン)〉



【No.9】
〈未来のまちのイメージ (居住ゾーン)〉



【No.10】
〈基地がまちになった例〉

3) みどりの中のまちづくり（海外先進事例調査）

「みどりの中のまちづくり」ページ中に新たなリンクボタンを設置し、海外先進事例の紹介ページを新設した。

今年度の調査先であるフランスのまちづくりについて、環境づくりと産業振興が融合した魅力あるまちづくりの視点で捉え、跡地利用計画で導入が求められている基盤整備、しくみ等について写真を中心に分かりやすく紹介するページとした。

「みどりの中のまち」事例のひとつ フランス

環境づくりと産業振興が融合した魅力あるまちづくりに向けて、フランスの事例を視察してきました。「ソフィア・アンティポリス」、「ニース・エコバレー」では豊かな自然と都市機能を融合させたまちづくりが行われています。

自然あふれる緑のあるまち
人が集まる、楽しめる場所
道路や公共交通

訪れた都市の位置を掲載

ソフィア・アンティポリス

自然あふれる緑のあるまち

ソフィア・アンティポリスの面積約2,400haの9割が緑地（県指定公園）となっており、法律で建物を整備する規模の緑地を整備することが定められています。

ソフィア・アンティポリスの街並み 研究施設の様子 コート・ダジュール大学の様子

まちの概要について、項目別（自然があふれる緑のあるまち、道路や公共交通、人が集まる、楽しめる場所）に写真を用いて分かりやすく紹介

道路や公共交通

当初は車移動が中心でしたが、社会情勢の変化を踏まえ、シャトルバス（10分～30分/回程度の頻度で、ニース市内を結ぶ）が整備され、利便性が向上しています。

自然環境を優先したインフラ整備を進めた結果、道路は地形に沿うカーブの多い構造となっています。

公共交通（バス）の様子 地域内の道路の様子

豊かな自然環境と都市機能の融合

周囲が森林であることから、火災の心配がある製造業の立地は規制されており、通信分野や研究機関等の立地を誘導しています。

当初は、産業拠点として位置づけていたことから、住宅はありませんでした（近隣のまちに居住）が、入居企業等の要請により、現在は住宅や生活利便施設等が整備されています。

入居企業は、当地域内の環境だけでなく、フランス南部の気候や集積している観光資源やレジャー資源等を評価し、従業員満足度も高い。

ソフィア・アンティポリスの街並み ソフィア・アンティポリスの街並み 緑に囲まれた研究所の様子

ニース・エコバレー

自然あふれる緑の中のまち

開発区域として位置づけられているエリア以外は開発が抑制されており、自然環境の保全が図られています。

新築の建物は環境認証が義務化されており、認証された建物は資産価値の向上、税制優遇等が実施されています。



保全区域の様子



保全区域の村落内の様子



新設建築物の様子

道路や公共交通

「15分で動けるまち」を目標に公共交通の充実を推進。

空港近接の立地性を活かしたマルチモーダルハブ（空港、自動車道（高速道路、幹線道路）、鉄道、バス、LRT）を整備。

既存道路空間の再配分（車道を歩道や自転車道に転換）を推進。



MRT（マス・ラビッド・トランジット）



自転車通行帯の様子



まちなかのレンタサイクルの様子

豊かな自然環境と都市機能の融合

開発区域と保全区域とで明確に分けられ、自然環境を保全する取り組みが行われています。都市機能を集約して効率性の高い都市構造への転換を進めるとともに、市街地内で老朽化したコンベンション施設等を移転し、跡地を公園や緑地帯として整備することで、市街地の魅力向上を図っています。

また、商業機能や研究機能を誘致するとともに、廉価な住宅供給も計画されています。

建物を整備するにあたって、コンペが行われ地域性のあるデザイン等々を評価し、整備が行われています。洪水リスクがある箇所については、緑地面積を増やすことによる雨水浸透対策等が行われています。



ニース市街地の街並み



開発区域の集合住宅



河川上部に整備された緑地帯

「緑の中のまち」事例のひとつ。動画で見る **シンガポール**

「緑の中のまち」事例のひとつ。フォト・リポート **オーストラリア**

「緑の中のまち」事例のひとつ。フォト・リポート **ドイツ**

「緑の中のまちづくり」トピックには3

（２）アクセス解析（２月末まで集計）

Google アナリティクスを使いホームページのアクセス解析を行った。

月毎のアクセス数は、平均約 741 名（昨年度（令和 3 年度）522 名、一昨年度（令和 2 年度）367 名）のユーザーが来訪し、約 1,814 ページビュー（昨年度 1,316 ページビュー、一昨年度 1,157 ページビュー）、1 ユーザーあたり約 2 ページを閲覧しており、昨年度及び一昨年度と比較すると、来訪者及びページビュー数ともに増加傾向であることが分かる。特に、今年度 11 月に実施した「普天間飛行場跡地利用県民フォーラム」の期間中においては、ページビュー数（閲覧されたページの合計数）の顕著な増加が見られ、イベント参加者が跡地利用計画に興味・関心を持ち、サイトにアクセスしたことでページビュー数が増加したと考えられる。

イベント参加者に実施したアンケート調査の結果、跡地利用計画に対する認知度は高かったが、本ホームページの存在は回答者の約半数が知らなかったと回答していることから、今後も継続した周知活動を行う必要があると考えられる。

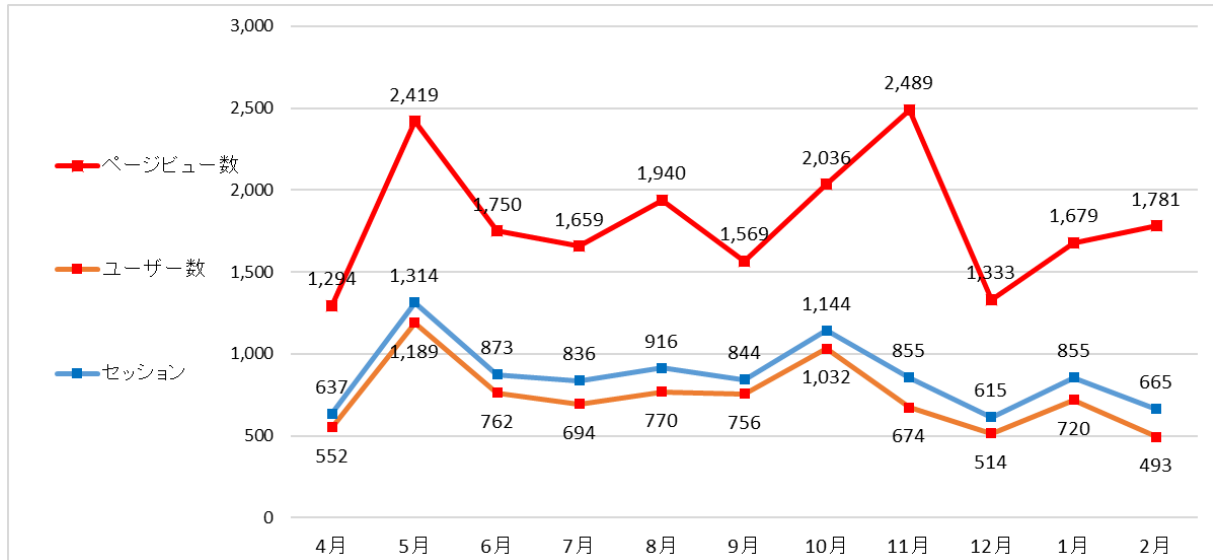
来訪者が多く閲覧しているページについては、「計画のポイント」としてまとめて掲載している「駐留軍用地が返還される（旧：基地が返還される）」、「未来のまちイメージ PV」、「跡地利用に伴う経済効果」が上位となっている。また、サイト内のユーザーの動きとしては、複数のページを閲覧した来訪者は全体の 3 割で、残りの 7 割の来訪者はサイト内で遷移せずに離脱していることがわかる。

エリア別のアクセス数については、米国やシンガポール等の外国からのアクセスがわずかにあるものの約 98%が日本となっている。また、市町村別のアクセス数に関しては、那覇市が 10%と最も多く、次いで大阪市 6%、福岡市 5%の順となっており、宜野湾市からのアクセスは、10 番目に多い値で全体の約 2%にとどまっている。県外市区町村からのアクセスについては、人口の多い市区町村（大阪市、福岡市、横浜市、名古屋市）からのアクセスが相対的に多くなっていると考えられる。

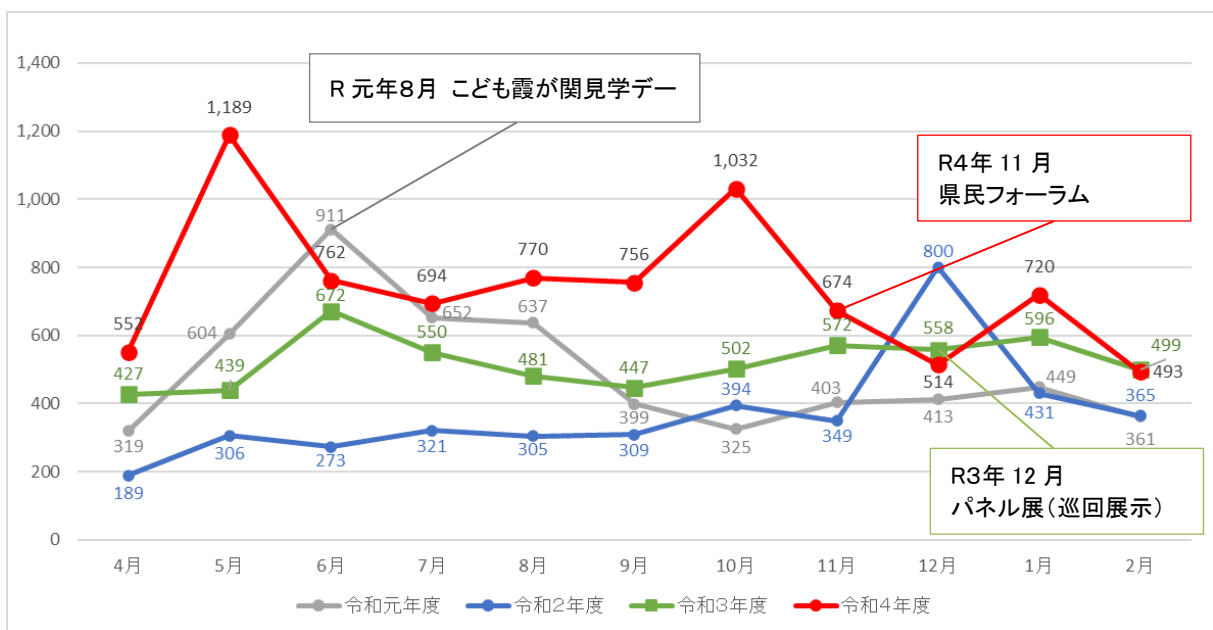
ホームページへのアクセスに利用している端末の内訳については、スマートフォン等のモバイルが約 56%と最も多く、次いで PC（デスクトップ）が約 41%、タブレット 3%の順となっている。過去 2 年間の利用端末の推移においても、モバイルが最も高い割合を占めていることから、ホームページの更新にあたっては、モバイルからの見え方を念頭に置いたデザイン、コンテンツ制作を検討する必要があると考える。

表Ⅳ-6 月毎のアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
セッション	637	1,314	873	836	916	844	1,144	855	615	855	665	9,554
ユーザー数	552	1,189	762	694	770	756	1,032	674	514	720	493	8,156
ページビュー数	1,294	2,419	1,750	1,659	1,940	1,569	2,036	2,489	1,333	1,679	1,781	19,949
ページ/セッション（頁）	2.03	1.84	2.00	1.98	2.12	1.86	1.78	2.91	2.17	1.96	2.68	平均 2.09
訪問時の平均滞在時間（分：秒）	01:19	01:12	01:32	02:14	01:36	01:31	01:21	03:15	02:11	02:15	02:50	平均 01:52
直帰率（％）	66.09%	66.51%	66.55%	64.83%	63.86%	65.28%	68.62%	60.00%	68.94%	63.98%	62.11%	平均 65.27%



【用語解説】セッション：アクセスユーザーがサイトに流入してから離脱するまでの一連のページ遷移
ユーザー数：指定した期間にサイトにアクセスしたユーザーの数（同じユーザーは1回だけカウント）
ページビュー数：閲覧されたページの合計数。同じページが繰り返し表示された場合も集計
ページ/セッション：1セッションあたりのページビュー数。1回あたり何ページを閲覧したのかを判断
訪問時の平均滞在時間：1セッションあたりの平均滞在時間
直帰率：1ページだけを閲覧した訪問数の割合



図Ⅳ-37 ユーザー数の推移

表Ⅳ－７ ページ別ページビュー数（上位 10 ページのみ掲載）

単位：頁

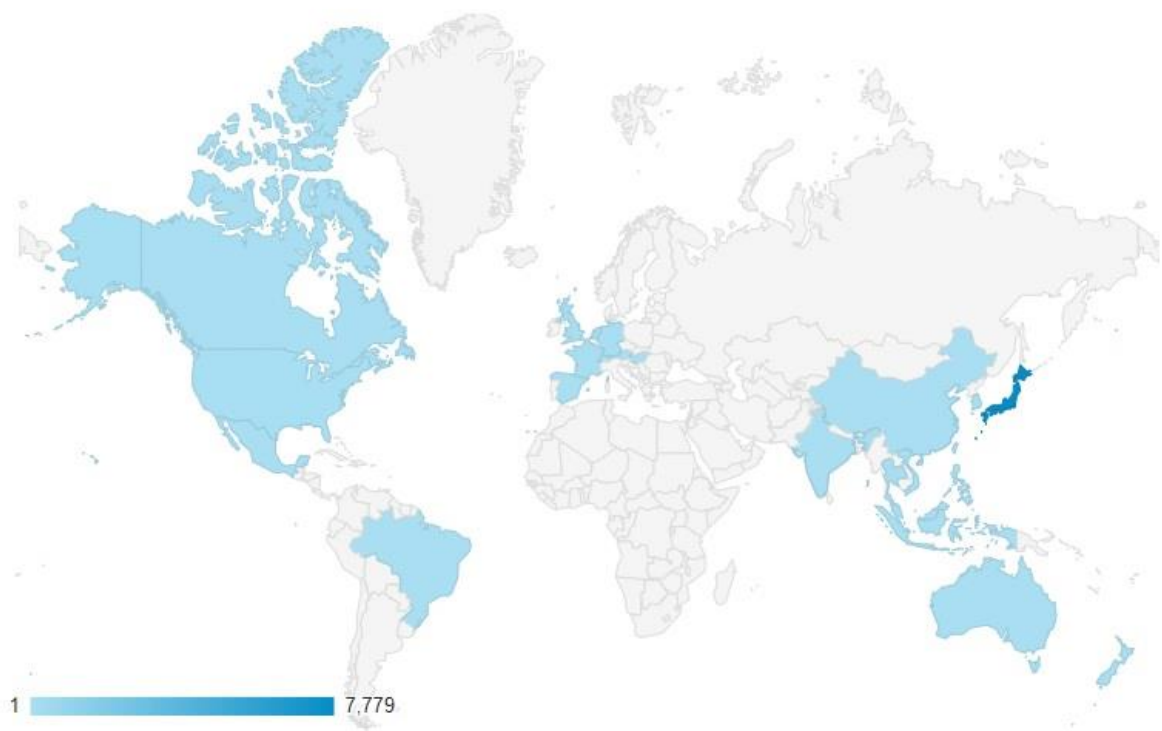
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
トップページ	470	784	527	450	596	593	711	567	359	561	399	6,017
駐留軍用地が返還される （旧：基地が返還される）	229	608	337	334	428	305	384	328	246	259	208	3,666
未来のまちイメージPV	125	195	160	155	156	153	159	188	90	190	79	1,650
跡地利用に伴う経済効果	45	95	80	118	106	102	118	70	44	72	33	883
人々が集まるまちができる	52	87	67	55	78	61	103	113	69	60	27	772
まちがつながる	82	136	112	104	106	91	87	-	-	-	-	718
みどりの中のまちをつくる （旧：緑の中のまちをつくる）	34	64	64	59	67	34	48	110	61	45	27	613
模型で見るむかしの風景ページ	33	49	40	34	40	20	56	42	23	57	15	409
原風景を探しに行こう！	42	38	42	45	43	22	37	29	19	43	23	383
緑の中のまちづくり	12	38	38	30	34	27	30	38	31	36	32	346
バーチャル普天間未来シティ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37	18	55



図Ⅳ-38 サイト内のユーザーの動きの解析

表Ⅳ-8 エリア別（国別）のアクセス数（上位 10 か国のみ掲載）

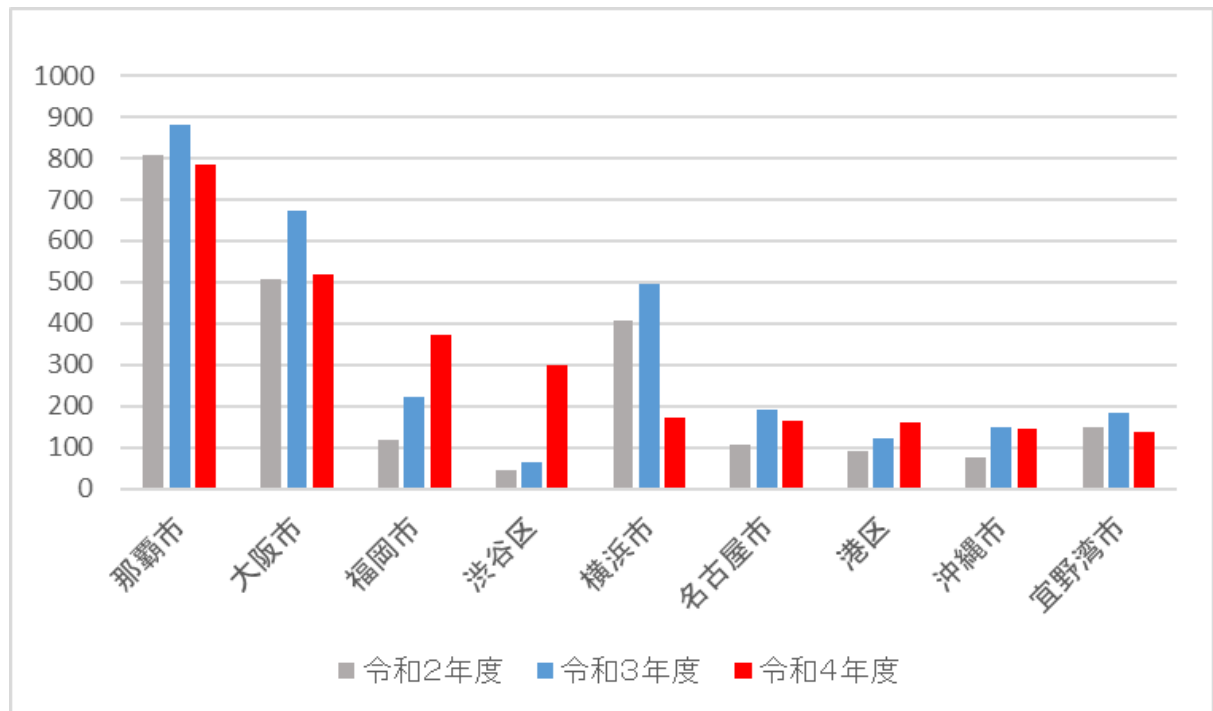
国	ユーザー (人)	新規 ユーザー (人)	セッション (頁)	直帰率 (%)	ページ/ セッション (頁)	平均セッシ ョン時間 (分:秒)
日本	7,779	7,764	9,432	65.10%	2.10	112.50
アメリカ	44	44	44	77.27%	1.52	105.52
シンガポ ール	10	10	11	81.82%	2.27	111.00
台湾	8	7	10	60.00%	1.70	49.50
韓国	6	6	6	83.33%	1.33	53.00
不明	6	6	6	100.00%	1.00	0.00
タイ	5	5	5	80.00%	1.40	254.00
オーストラ リア	4	4	4	75.00%	2.50	77.25
ドイツ	4	4	4	75.00%	1.25	10.00
香港	4	3	4	75.00%	1.25	52.75
合計	7,897	7,880	9,554	(平均) 65.27%	(平均) 2.09	(平均) 112.05



図Ⅳ-39 国別のアクセス状況

表Ⅳ-9 エリア別（市区町村別）のアクセス数（上位 10 地域のみ掲載）

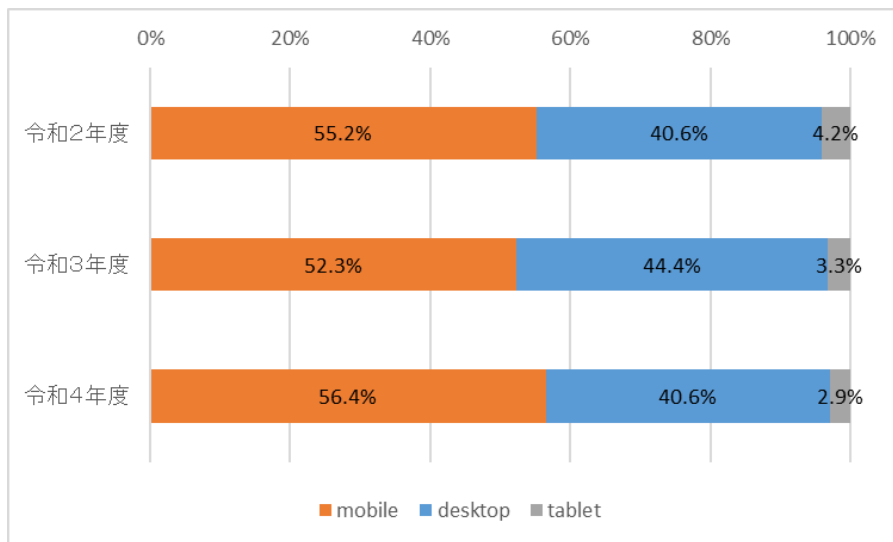
国	ユーザー (人)	新規 ユーザー (人)	セッション (頁)	直帰率 (%)	ページ/ セッション (頁)	平均セッ ション時間 (分:秒)
不明	1,732	1,657	2,053	65.17%	2.19	144.43
那覇市	785	753	1,118	53.31%	2.94	162.48
大阪市	518	504	575	66.96%	1.69	80.25
福岡市	372	359	420	68.57%	1.78	67.17
渋谷区	299	285	336	70.83%	1.75	87.83
横浜市	172	166	189	66.67%	1.88	90.02
名古屋市	163	161	176	64.20%	1.98	112.40
港区	162	160	192	63.02%	2.25	126.09
沖縄市	145	141	165	52.73%	2.52	123.18
宜野湾市	136	127	158	57.59%	2.10	135.23
合計	8,621	7,880	9,554	(平均) 65.27%	(平均) 2.09	(平均) 112.05



図Ⅳ-40 市町村別アクセス数の推移

表Ⅳ-10 利用端末別（ＰＣ、タブレット、スマートフォン）のアクセス数

デバイス	ユーザー (人)	新規 ユーザー (人)	セッション (頁)	直帰率 (%)	ページ/ セッション (頁)	平均セッ ション時間 (分:秒)
mobile	4,462	4,455	5,085	70.54%	1.65	65.52
desktop	3,210	3,194	4,210	58.76%	2.64	170.15
tablet	233	231	259	67.57%	1.65	112.05
合計	7,905	7,880	9,554	(平均) 65.62%	(平均) 1.98	(平均) 115.91



図Ⅳ-41 利用端末の推移

(3) 今後の展開

今年度までに毎年コンテンツの更新を行いながら、中身の充実を図ってきた。現状のサイトで見られるコンテンツは以下の通りである。

- ・動画で見る普天間未来予想図（中間取りまとめ（第2回））
- ・バーチャル普天間未来シティ
- ・未来のまちイメージPV（動画）
- ・「緑の中のまちづくり」（海外事例動画あり）
- ・体験イベント（アンケート結果あり）
- ・模型で見る昔の風景（字宜野湾・字神山まちまーい体験報告含む）
- ・ゆめのあるぎのわんみらい（児童生徒絵画コンクール受賞作ギャラリー）
- ・県民の声（地権者、市民の活動紹介、体験イベント紹介、絵画コンクール紹介、跡地利用計画提案コンペ受賞作紹介）
- ・中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想
- ・跡地利用に伴う経済効果
- ・関連リンク
- ・中間取りまとめ（英語版）



ホームページでは、中間取りまとめ（第2回）のポイントやこれまで作成してきた未来のまちイメージPV、さらには県民・市民の声等、跡地利用に関する様々な取組を分かりやすく発信している。

今年度開催したイベントは過年度までのイベントと異なり、興味・関心を持ち来場された方に対してのアンケート調査であったことから、9割以上の方が跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていたが、ホームページの存在を知っていた方は約6割に留まっていた。しかし、ホームページを知らなかったと回答した方のうち、約9割が「ホームページを知らなかったが興味がわいた」と回答したことから、ホームページの存在を周知することでアクセス増につながると考えられる。そのため、情報発信・合意形成イベント時には、ホームページを閲覧できるブースの設置やホームページのコンテンツを紹介するフライヤーの作成・配布等を併せて実施することが望まれる。

また、ホームページへのアクセスに利用している端末は、スマートフォン等のモバイル端末が最も高い割合を占めていることから、ホームページの更新にあたっては、スマートフォン等のモバイル端末からの見え方を念頭に置いたデザイン、コンテンツ制作を検討する必要があると考える。

コンテンツの一つである「バーチャル普天間未来シティ」は、普天間飛行場跡地の計画内容や歴史等の地域資源を見ることができるとともに、未来のまちを体験できることから、学校教育の場等での活用も考えられる。今後、未来のまちを体験できるバーチャル普天間未来シティの周知とともに、県民・市民・地権者が何度もアクセスしてみたいと思えるようなコンテンツを追加・周知する必要がある。